



# とむろむ報所

第32号

—平成30年度事業報告等—

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立室戸青少年自然の家

— National MUROTO Youth Outdoor Learning Center —

# 巻頭言

独立行政法人国立青少年教育振興機構  
国立室戸青少年自然の家所長  
小 野 保

平成 30 年度に実施した事業等の報告を冊子にまとめました。是非とも御高覧いただき、御意見や御助言を賜りましたら幸甚です。

当施設は、地域の過疎化、少子化、学校行事の過密化による集団宿泊訓練の減少などで、利用者数が減少、稼働率が低迷し、施設を取り巻く環境は厳しい状況にあります。しかし、地域の財産である室戸ジオパークを舞台とした活動や、近年需要が高まっている防災プログラムやイングリッシュキャンプなど、既に人気定着している海の活動以外にも施設の特色を打ち出していき、利用者の確保、増大につなげていきたいと考えています。

また、施設の老朽化とともに、自然災害により施設が壊れる被害も発生していますが、定期的に職員が調査して把握し、対応するようにしています。さらに、子供たちが芸術作品と出会う機会を提供することを通して、子供たちの健やかな成長を支援することを目的に、自然とアートが調和する施設整備を行う「むろと体験の風×アートプロジェクト」も実施しました。

平成 30 年度の事業等の実施にあたっては、研修指導員やボランティアリーダーの皆様にも多くの支えをいただき、計画を達成することができました。心よりお礼を申し上げます。

これからも、皆様の一層の御支援と御協力をいただきますようお願いいたします。

# 目 次

## 平成30年度事業報告

### 教育事業

|                   |    |
|-------------------|----|
| ●体験！発見！ジオパーク（夏編）  | 1  |
| ●体験！発見！ジオパーク（防災編） | 3  |
| ●体験！発見！ジオパーク（秋編）  | 5  |
| ●野遊び塾             | 8  |
| ●むろと元気塾           | 11 |
| ●ボランティア養成講座       | 13 |
| ●自然の家ジュニアクラブ      | 16 |
| ●キャンプ de トライ      | 18 |
| ●リフレッシュキャンプ       | 21 |
| ●教員免許状更新講習        | 24 |
| ●親子でスノーケリング①      | 28 |
| ●親子でスノーケリング②      | 31 |
| ●自然体験活動指導者養成研修    | 33 |
| ●イングリッシュキャンプ      | 35 |
| ●一歩ふみだせわいわいキャンプ   | 38 |
| ●サイエンスキャンプ        | 40 |
| ●教員免許状更新講習        | 43 |
| ●ふれあい通学合宿         | 46 |

### むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業

|                      |    |
|----------------------|----|
| ●鯨舟競漕にチャレンジ          | 50 |
| ●ジオパークの生き物ウォッチング     | 52 |
| ●ニンジャキャンプ～冬の陣～       | 55 |
| ●くろしお祭り・くろしお200人キャンプ | 57 |
| ●むろと体験の風×アートプロジェクト   | 59 |
| ●いっしょにあそぼう通信         | 65 |

|        |    |
|--------|----|
| 管理運営報告 | 67 |
|--------|----|

|      |    |
|------|----|
| 広報活動 | 70 |
|------|----|

|      |    |
|------|----|
| 利用実績 | 72 |
|------|----|



# 体験！発見！ジオパーク(夏編)

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、大地の誕生や生命の営みについての興味・関心を高める。

### ○ 実施期間

平成30年8月28日(火)～平成30年8月30日(木) 2泊3日

### ○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 27名/30名

### ○ 活動プログラム

| 8月28日[火]                                | 8月29日[水]               | 8月30日[木]                      |
|-----------------------------------------|------------------------|-------------------------------|
| 10:00 高知市内迎え<br>海部郡迎え                   | 6:00 起床・洗面・清掃          | 6:00 起床・洗面・清掃                 |
| 12:00 奈半利町海浜センター着                       | 7:15 朝のつどい<br>朝食【食堂】   | 7:15 朝のつどい<br>朝食【食堂】          |
| 12:10 開講式                               | 8:20 自然の家発             | 8:45 退所点検                     |
| 12:20 昼食【弁当】                            | 8:50 海浜活動センター着         | 9:30 自然の家発                    |
| 13:00 カヤック<br>(奈半利町海浜センター)              | 9:00 スノーケリング(新港北)      | 10:00 慎太郎像前着<br>岬探勝(室戸岬)      |
| 16:00 奈半利町海浜センター発                       | 12:00 昼食【弁当】           | 11:45 慎太郎像前発                  |
| 17:00 自然の家着<br>オリエンテーション                | 13:00 海浜活動センター発        | 12:00 とろむ着<br>昼食【弁当】          |
| 17:30 タベのつどい<br>夕食【食堂】<br>荷物の移動<br>自由時間 | 13:15 磯観察(坂本海岸)        | 12:45 閉講式                     |
| 19:00 入浴                                | 16:00 海浜活動センター発        | 13:00 とろむ発<br>高知市内送り<br>海部郡送り |
| 21:45 就寝                                | 16:30 自然の家着            |                               |
|                                         | 17:30 タベのつどい<br>夕食【食堂】 |                               |
|                                         | 19:00 入浴               |                               |
|                                         | 21:45 就寝               |                               |

## 2. 活動の様子

### <1日目>

開講式後、奈半利町海浜センターの指導員の方に協力していただき、カヤックの活動を行った。まず、2人組のバディを決め、カヤックを運び出す準備から始まった。参加者同士で協力して準備をすることで、十分な活動時間を確保することができた。今回は、箱眼鏡を使って小魚やサンゴをカヤックから覗いた。前日の天気の影響で少し濁りはあったものの、ポイントまで移動すると美しいサンゴを観察することができた。休憩をはさみ、後半は2つのグループに分かれて活動を行った。余力のあるチームは、堤防の外を大きく回り、さらにカヤックの活動を楽しんだ。他のチームは、堤防の内側でパドルの使い方を学んだり、箱眼鏡を使って海の生き物を観察したりして楽しんだ。夜は班会で、一日の振り返りを行うことで、仲間との絆を深めることができた。





### < 2日目 >

午前中は、室戸岬新港のとろむでスノーケリング活動を行った。まず、海浜活動センターで基本的なスノーケルの使い方を学び、活動場所であるとろむへと移動した。バディと一緒に海に入り、とろむ港内にいる魚やサンゴなどの様々な生き物を観察した。普段、見ることができない生き物を目の当たりにして、驚きを隠せない様子であった。午後は、坂本海岸で磯観察を行った。班ごとに網や水槽を持ち、タイドプールにいる磯の生き物を観察したり、捕まえたりした。仲間と協力して、大きな魚や蟹を捕まえている班も多く見られた。捕まえた魚は室戸の自然の家にある「ミニ水族館」で飼うことにしたが、所に戻ってから多くの参加者が、興味をもって観察している様子が印象的であった。



### < 3日目 >

最終日は、室戸世界ジオパークセンターの専門員に来ていただき、岬探勝を行った。海岸では、班対抗の石集めゲームを行い、砂岩や泥岩などの岩石のつくりについて学んだ。また、タービダイト層のでき方について、専門員の話の聞いたり、モデルを見たりして学習した。参加者の中には、積極的に質問する児童も多く見られ、興味をもって活動できていると感じた。小学生にとって、少し難しい内容もあったが、どの参加者も一生懸命話を聞き、ジオパークについて理解を深めることができた。



## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

- ・磯観察で、エビや魚をたくさん取ることができた。
- ・カヤックでは、バディと協力して漕ぐことができた。
- ・初めて参加したけど、すぐに友達ができてよかった。サンゴがとてもきれいだった。
- ・スノーケリングがとても楽しかった。フグを見れたのもよかった。

### ○ 事業の成果

- ・カヤックやスノーケルなどの体験活動を通して、海にいる生き物や自然により興味・関心をもつことができるようになった。
- ・海の活動に必要な道具の使い方を正しく学び、活用することができた。
- ・岬探勝を通して、室戸世界ジオパークについて学び、岩石のつくりや成り立ちについて理解を深めることができた。
- ・班での活動を通して、仲間と協力し、助け合うことの大切さを学ぶことができた。

### ○ 事業の課題

- ・熱中症対策を確実にいき、水分補給を適宜行えるように、準備する必要がある。
- ・指導員の方に協力いただく場合、入念に打合せを行い、活動をより効果的なものにしていく必要がある。
- ・今回の岬探勝では、ジオパークセンターの専門員の方に指導していただいた。今後、他の事業でも積極的に連携し、室戸世界ジオパークへの興味・関心を高めていく必要がある。

# 体験！発見！ジオパーク(防災編)

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、大地の誕生や生命の営みについての興味・関心を高める。

### ○ 実施期間

平成30年9月22日(土)～平成30年9月24日(月) 2泊3日

### ○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 22名/20名

### ○ 活動プログラム

| 9月22日[土]                                                                                                                  | 9月23日[日]                                                                                                             | 9月24日[月]                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 12:35 開講式<br>12:45 学習1 ジオパークセンター見学<br>14:00 学習2 津波シェルター見学<br>14:50 学習3 非常持出袋の中身を<br>考えよう。<br>17:00 災害時に役立つアウトドアク<br>ッキングⅠ | 6:15 災害時に役立つアウトドアク<br>ッキングⅡ<br>9:15 フィールドワーク(吉良川地区)<br>12:10 防災食試食体験<br>14:00 ロープワーク<br>15:30 災害時に役立つアウトドアク<br>ッキングⅢ | 6:15 災害時に役立つアウトドアク<br>ッキングⅣ<br>9:00 学習のまとめ<br>11:15 成果発表<br>12:00 昼食<br>13:00 閉講式 |

## 2. 活動の様子

### <1日目>

昼食と開講式の後、室戸ジオパーク推進協議会地理専門員の中村有吾氏の解説で南海トラフ巨大地震発生のメカニズム等について学習した。佐喜浜地区に移動し、津波シェルターの見学をした。津波シェルターの設備やシェルターがなぜできたか、災害時の活用方法について室戸市役所防災対策課職員から聞き取りをした後、非常持出袋の中身について考えた。懐中電灯や電池、薬、非常食等の意見が出た。水の量を具体的に考えてもらおうと、「1日2Lとして3日で6L」「ペットボトル3本」等の意見が出てきた。夕食は災害救助用炊飯袋を使用しての炊飯だった。かまど作りや火おこしに時間を要したため日没になり、ライトをつけて食事をした。班の仲間で声をかけながら薪を探したり、米を洗ったりしながら仲間とのつながりを深めていった。夕食後はレスキューシートに身を包んで21時頃眠りについた。

### <2日目>

起床予定は6時だったが、すでに起きだしている子供が多かったので、起きた子供から夕食に使用する竹を切り、竹飯づくりの準備をした。朝食の食材が届くとカートンドッグ作りに取り掛かった。牛乳パックの中にアルミホイルで包んだパンを入れ、それを燃やすだけでホットドッグが簡単にできることに驚いていた。パンの焦げ目を友達と比べながら楽しく食べていた。朝食後は本館へ移動し、バスに乗り吉良川地区

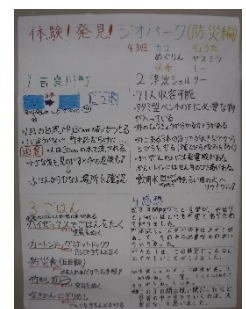


に向かった。吉良川まちなみ駐車場に到着後、津波避難マップを使って地域めぐりをした地点の津波浸水高を確認していった。最後の神社や公民館が避難場所になっている理由を知り、津波の怖さを実感していたようだった。昼食はアルファ化米を試食した。水で1時間戻しただけの簡単な調理でおいしい食事ができることに驚いた。午後の活動はロープワークとカレーライスづくりだった。ロープワークは本結びや8の字結び、まき結びが結べるようになった後、ブルーシートでタープテントを作った。夕食は切った竹でご飯を炊き、食料保存袋を使ってカレー作りをした。日没が迫り薄暗くなる中での食事とその後片付けでは、灯りの大切さを改めて感じる機会となったようだ。夜は1日目と同じくレスキューシートに身を包んで21時頃眠りについた。



### <3日目>

最終日の朝食はアルミ缶でご飯を炊き、それを班の仲間とおにぎりにして食べた。アルミ缶350mlで1合のご飯が炊けることに参加者は驚いていた。「おいしい!」と言って楽しそうに食べる参加者もいた。朝食を食べて落ち着いた後、4つの班が2日間の学習の成果を班ごとにまとめ、発表した。発表の中で参加者は「災害の中で生きていくのは大変だなあ。」「自分も人の命も大切にしないといけない。」と感想を述べていた。班でまとめたものは室戸世界ジオパークセンターで展示をしていただいている。今後30年以内に発生する確率が70%~80%と高い南海トラフ巨大地震、今回の事業をきっかけとして生活環境にあった備えを考え、準備してほしいと願っている。



## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

- ・災害後の生活はそうとうかこくなんだなあと思った。
- ・自分もみんなの命も大切にしないといけないので、訓練などをして備えておかないといけない。
- ・光がなかったので、食べることや後片付けをするのが大変でした。

### ○ 事業の成果

- ・室戸市役所防災対策課の協力のもと津波シェルターを見学することができ、普段体験できない体験を事業に取り入れることができた。
- ・津波シェルターや避難所等を見学することで、県や市は防災・減災に向けて取り組んでいることを知り、災害に備えて自分はどうのようになれるのか考えるきっかけとなった。
- ・水や電気等のライフラインが制限される生活の中で、自己主張しながらも互いに協力し合うことで班の絆も深まっていった。

### ○ 事業の課題

- ・今回の事業は天候に恵まれすべてのプログラムを実施することができたが、雨天時荒天時には野外炊事プログラムが課題となる。



# 体験！発見！ジオパーク(秋編)



## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、大地の誕生や生命の営みについての興味・関心を高める。

### ○ 実施期間

平成30年11月23日(金)～平成30年11月25日(日) 2泊3日

### ○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 26名/25名

### ○ 活動プログラム

| 11/23(金)                       | 11/24(土)                   | 11/25(日)                  |
|--------------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 9:30 はりまや橋<br>観光バスターミナル発       | 6:30 起床・洗面・清掃              | 6:00 起床・洗面・清掃             |
| 10:40 JR阿波海南駅発                 | 7:30 朝のつどい                 | 7:30 朝のつどい                |
| 12:00 室戸ジオパークセンター着             | 7:45 朝食【食堂】                | 7:45 朝食【食堂】               |
| 12:10 昼食【弁当】                   | 9:00 吉良川炭工房 見学<br>・炭窯の見学等  | 8:45 退所点検                 |
| 13:00 開講式                      | 12:00 昼食【食堂】               | 9:00 学習のまとめ               |
| 13:30 室戸ジオパークセンター見学            | 13:00 炭焼き体験<br>・窯出し見学、体験   | 11:00 成果発表                |
| 14:45 室戸ジオパークセンター発             | 15:30 炭を使った工作<br>・炭の箸置きづくり | 12:00 昼食                  |
| 15:00 佐喜浜町 土佐備長炭資料館<br>ほのぼの館見学 | 17:00 タベのつどい               | 13:00 閉講式                 |
| 16:00 自然の家へ移動                  | 17:15 夕食【食堂】               | 13:30 自然の家発               |
| 16:30 入所オリエンテーリング              | 18:45 班タイム                 | 15:30 JR阿波海南駅着            |
| 17:00 タベのつどい                   | 20:00 入浴                   | 16:00 はりまや橋<br>観光バスターミナル着 |
| 17:15 夕食【食堂】                   | 21:00 自由時間                 |                           |
| 18:45 班タイム                     | 22:00 就寝                   |                           |
| 20:00 入浴                       |                            |                           |
| 21:00 班会                       |                            |                           |
| 21:30 就寝準備                     |                            |                           |
| 22:00 就寝                       |                            |                           |

## 2. 活動の様子

### <1日目>

昼食と開講式の後、室戸ジオパークセンターを見学し室戸市内における土佐備長炭づくりのことについて学習した。佐喜浜町の土佐備長炭資料館ほのぼの館へ移動し炭の見学をした。ほのぼの館の杉本正一郎さんに室戸の炭づくり、炭の良さ、炭づくりの工夫や苦勞、これからの炭づくりなどをお話していただいた。子供たちはほのぼの館に展示されている炭を見て、炭が様々なものとして日常生活に利用されていることを知り炭についての理解を深めていった。



また、実際に炭窯を目にして、炭ができるにはたくさんの労力が必要であることも知ることができた。夜は班会で、一日の振り返りを行った。炭窯見学の感想を話すことで友達が炭についてどう感じたかを知ることができ、仲間との絆を深めることができた。

## < 2日目 >

午前中は、バスで吉良川炭工房に行き仙頭博臣さんの炭窯を見学した。仙頭さんから備長炭ができる工程を聞いたり、質問をしたりしていた。備長炭が高い値段で買われていることを知りびっくりしている子供たちが多かった。また、仙頭さんから備長炭をプレゼントしてもらった。子供たちは、備長炭をたたいて、きれいな金属音を楽しんでいた。午後からは、吉良川町の炭玄に行って、炭の窯出し体験を行った。窯から出てきた真っ赤な炭を見て感動している子供たちの姿が見られた。窯出しを行う時は、「すごく熱かった。」と言いながら全員の児童が体験することができた。炭ができるには大変な苦労があることが



分かったようだ。窯出し体験後、自然の家に帰って備長炭の箸置きづくりを行った。子供たちは、手が真っ黒くなりながらサンドペーパーを使って備長炭を磨いていた。出来上がった備長炭の箸置きを見て喜んでいて。夕食後、班タイムで炭窯見学・体験の感想やメモの整理をした。子供たちの中には、A4の紙に何ページもメモを取っていた。改めて、炭の良さや不思議さを振り返ることができた。

## < 3日目 >

最終日は、班ごとに炭について学んだことや感じたことを模造紙にまとめた。子供たちは、室戸市の炭の歴史、炭ができるまでの工夫や苦労、備長炭の箸置きを作ったの感想など、協力し合いながらまとめて書いていた。子供たちの中には、模造紙にたくさん書きたいことがあって悩んでいる場面も見られた。出来上がったまとめを見たが、いろいろな視点で炭のことについてまとめることができていた。



模造紙にまとめることが終わったら、班ごとに発表をしてもらった。発表者の中には、「炭づくりは大変だなあ。」

「炭焼き体験をして炭を大切にしようと思った。」「炭のことがよく知れて、炭博士になれてよかった。」と感想を述べていた。班でまとめたものは室戸世界ジオパークセンターで展示をしていただけるようになった。最後に、炭づくりに必要なことは自然を大切にすることであるとい

うことを子供たちは学ぶことができた。今回の事業をきっかけに自分の身の回りの様々な物に対して興味・関心を持って行ってほしいと願っている。





### ○ 参加者の感想

- ・この三日間で、炭の大切さがわかり勉強になりました。
- ・私は、このキャンプに参加して炭を大切にしようと思いました。
- ・窯出し体験をして、職人さんは熱い場所でずっと作業をしているのですごいと思いました。
- ・炭づくりは大変ですごい歴史があることがわかりました。
- ・炭について教えてもらったり、体験させてもらったりして良かったです。
- ・窯から炭を運ぶ時はとても暑かったです。いい経験ができました。
- ・私たちは、はじめは炭についてよく分からなかったけど、今回ほのぼの館や吉良川の炭工房に行って、炭についてよく知れました。これからも、炭について少しずつ勉強していきたいと思いました。



### ○ 事業の成果

- ・今回の事業は、もう一つの室戸の歴史を作ってきた「炭」をテーマに体験活動を多く取り入れたプログラムで行った。参加した子供たちは、炭は知っているが、炭がどのようにできて、自分たちの生活の中でどのように活かされているか分からない。今回の事業を通して、炭に対しての愛着や素晴らしさを感じたり体験したりすることができた。また、炭づくりの工夫や苦労を考えることができた。これから様々な仕事を見学したりすることがあると思うが、仕事をしていく中ではいろいろな苦労などもあるが、何かを最後までやり遂げることで達成感や満足感も生まれてくることも感じることもできた。
- ・班活動を通して、主体的・対話的な学びができた。自分の思いや考えを伝えることの大切さも考えることができた。



### ○ 事業の課題

- ・今回の事業は、自然の家の炭窯を使っでの体験を行う予定であったができなくて内容を変更して行った。どのようにすればより良い炭窯体験を子供たちにさせることができるか考えていく必要がある。
- ・今回は、炭工作で備長炭の箸置きを作ったが、子供たちは炭工作をすごく楽しみにしていた。炭を使った工作の種類などを増やしておく必要がある。





## 野遊び塾

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

ネット依存や不登校などの課題を抱える青少年とその保護者を対象に、農作業や野遊び等の体験を通して、親と子のかかわり方について考える機会を提供します。参加した児童・生徒の社会的自立へつなげていくことを目的とする。

#### ○ 実施期間

第1回 平成30年7月14日（土）～7月15日（日）

第2回 平成30年11月3日（土）～11月4日（日）

#### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

学校に行きたくても行けない児童・生徒及びその保護者

インターネット（SNS・ゲーム）に夢中になりすぎてしまう児童・生徒及びその保護者

第1回 3家族8名／10家族30名程度

第2回 5家族14名／10家族30名程度

#### ○ 活動プログラム

| 7月14日〔土〕        | 7月15日〔日〕         |
|-----------------|------------------|
| 11:30 はじまりの会・昼食 | 6:00 起床・身支度      |
| 12:45 釣り        | 7:00 朝食          |
| 14:30 自然の家へ移動   | 8:00 片づけ・掃除      |
| 15:00 ベッドメイク    | 9:15 基地づくり       |
| 15:30 山中先生の話    | 11:15 昼食づくり やきそば |
| 17:00 カレーづくり・夕食 | 12:30 片づけ・アンケート  |
| 19:00 たき火トーク    | 13:00 終了・解散      |
| 20:00 入浴・自由時間   |                  |
| 21:00 就寝        |                  |

| 11月3日〔土〕           | 11月4日〔日〕          |
|--------------------|-------------------|
| 11:30 集合・オリエンテーション | 7:00 起床・部屋清掃      |
| 12:00 昼食（食堂）       | 8:15 朝食           |
| 13:00 第3集から歩いて移動   | 9:00 基地づくり        |
| いもほり体験             | 11:00 昼食の準備       |
| 14:00 終了・移動・ベッドメイク | 12:00 いただきます      |
| 落ち葉集め              | 12:30 ごちそうさま・片づけ  |
| 15:30 焼き芋づくり       | 13:00 終わりの会・アンケート |
| 16:30 山中先生のお話し     | 13:30 バス出発・解散     |
| 18:00 夕食           |                   |
| ロープワーク・たき火         |                   |
| 20:30 入浴・就寝        |                   |

## 2. 活動の様子

7月14日（土）＜1日目＞

### 【釣り】



1日目は、とろむの港内で釣りをを行った。エサ付けから、魚を針から外すところまで自分で行ってもらった。難しいところや、失敗したときは、親子で協力し、楽しく活動している姿が見られていた。夕食を食べた後は、たき火を囲んで活動を振り返った。初めてしたことや、お手伝いしたことなどを楽しそうに話していた。夜は、いつもゲームしている子供たちは、空を見上げて、「あの星はなに？」と夜空を興味深く眺めていた。

7月15日（日）＜2日目＞

### 【基地づくり】



2日目は、森の中で、ロープやのこぎりを使い、自分達の遊び場を作る「基地づくり遊び」を行った。木を切るにしても、木に結び付けるにしても、親子で協力しないとできないため、声を掛け合い、意思疎通を図りながら楽しむ姿が見られた。作り終えたあとは、家族間でお互いに作った作品を鑑賞したり、遊んだりした。昼食では、参加者同士が協力して調理から片づけまで進めていた。保護者が自分以外の子供に声をかける姿もあり、子供達は親以外の大人と関わる体験をしていた。

11月3日（土）＜1日目＞

### 【いもほり・焼き芋】



1日目は、歩いて畑に行き、さつまいもほり体験を行った。天気にも恵まれ、参加者は汗かきながら、たくさんのさつまいもを収穫した。汚れることを躊躇うことなく、膝をつき、土をかき分けていもを掘り起こしていた。地元の農家の人にお借りしている畑ということもあり、収穫後に、丁寧に後片付けをしていた。

また落ち葉を集めて、収穫したての芋で、焼き芋を作った。焦がしてしまうこともあったが、自分で収穫したこともあり、上手に焦げた皮を剥ぎながら残さず食べていた。また、活動の準備で、その場を離れていた職員のために、子供たちの意見で余分に焼き芋を作っていた。

火を扱う場面では、複数回参加している子供たちが、誰かに言われるでもなく、薪割りや、火の管理などを率先して行う姿が見られた。

11月4日（日）＜2日目＞

【基地づくり】



2日目の基地づくりは夏と同様の活動を行った。複数回参加の子供たちは、前回作ったものよりもいいものを作ろうと、効率よく活動を進めていた。初めて参加し子供たちは、手伝ったり、真似をしながら、自分の作りたい遊具を作って遊んでいた。最後に作ったものをお互いに使ってみたり、遊んだりする中で、お互いの工夫や苦労を認め合う場面が見られた。

### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・最初は、ゲームができなくなって、つまらなかったけど、釣りや外で遊ぶのも楽しいことがわかった。（子供）
- ・一泊二日は短かったです、すごく楽しかったし、ごはんもおいしかったです。（子供）
- ・子供が、これだけ外で遊べることに驚いた。（保護者）
- ・ちゃんと子供をしかってくれてうれしかった。（保護者）

#### ○ 事業の成果

- ・継続して参加している子供たちは、前回に比べ積極的に行動する場面が見られた。7月の回では、はじまりの会の直前までゲームをし続けて、自分でやめられなかった。11月の回では、移動中のバスの中でもゲームをせず、活動を楽しみに子供同士で話をしていた。講師の先生からは、「生活習慣がよかった」、「周りの大人と関わる機会が増えた」ことを取り上げ、「自然体験活動の成果だと実感している」と話している。
- ・7月の回では、食事を4回とも野外炊事にし、片づけ、配膳、調理補助、調理と少しずつお手伝いの内容を変化し、子供達に負荷がかかりすぎないように配慮して進めていた。最後の焼きそばでは、参加者が中心となって作った焼きそばを職員にふるまいまで、積極的に活動する姿が見られた。

#### ○ 事業の課題

- ・課題を抱える青少年を対象とした事業のため、その対象者を募集することが難しい。
- ・対象が課題を抱える青少年であるので、参加者都合でキャンセルになることが多く、講師を通じて、参加を促すのに苦慮している。



## むろと元気塾Ⅱ

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

社会施設の親子を対象に、自然体験活動を通してコミュニケーション力のアップや自己肯定感の向上を図る。

#### ○ 実施期間

平成30年10月13日(土)～平成30年10月14日(日) 1泊2日

#### ○ 対象者・参加者数(人数/定員)

21名/30名

#### ○ 活動プログラム

| 10月13日[土]                         | 10月14日[日]                              |
|-----------------------------------|----------------------------------------|
| 10:30 安芸和光寮発                      | 6:00 起床                                |
| 11:30 室戸ジオパークセンター着<br>・あいさつ ・自己紹介 | 7:15 朝のつどい                             |
| 11:45 昼食                          | 7:30 朝食                                |
| 12:30 室戸ジオパークセンター見学               | 9:00 自由時間                              |
| 13:30 室戸ジオパークセンター発                | 10:30 かつおのたたき体験<br>場所:野外炊事場<br>指導:瀬沼次長 |
| 13:40 むろと廃校水族館着・見学                | 12:00 昼食                               |
| 15:00 むろと廃校水族館発                   | 13:00 おわりのつどい                          |
| 15:30 自然の家着                       | 13:30 自然の家発                            |
| 15:40 入所OR、荷物をくろしお棟へ              | 14:30 安芸和光寮着                           |
| 16:00 流木クラフト                      |                                        |
| 17:30 タベのつどい                      |                                        |
| 17:45 夕食・自由時間                     |                                        |
| 19:00 星座観察<br>場所:展示棟 中止:ナイトハイク    |                                        |
| 21:00 入浴                          |                                        |
| 22:00 就寝                          |                                        |

### 2. 活動の様子

#### <1日目>

1日目、室戸世界ジオパークセンターやむろと廃校水族館の見学を行った。親子でいろいろな施設に出かけることなどがあまりないということを聞いていたので親子で楽しめる内容を考えて、自然の家に入所してからは、流木クラフトを行い、親子でキーホルダーを作成した。夜は、自分のことは自分でできる力、自立する力をつけるために、ベットメイキングを指導して行った。

#### <2日目>

2日目、野外炊事棟でかつおのたたきづくりを行った。包丁を使うことがあまりないと聞いていたので、玉ねぎやネギ、かつおを包丁で使って切る活動を多くとった。また、火を使うこともあまりないと聞いていたので、かつおを焼く活動も全員体験をさせた。かつおのたたきづくりを通して自分の食生活を考える機会になった。

### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・今回のような事業を計画してくれてありがたいです。親子でどこかに出かけることがあまりないので楽しく参加させていただきました。来年もぜひお願いしたいです。
- ・子供たちがいろんな体験ができ、とても楽しそうで、すごくうれしかったです。また参加したいです。本当にありがとうございました。
- ・ボランティアの方々には、子供たちと遊んでいただいて、とてもうれしく、楽しい思い出になったと思います。
- ・子供たちがおもいっきり遊べる活動等があれば良かったかなと思いました。

#### ○ 事業の成果

- ・早寝、早起き、朝ごはんや身の回りの整理整頓など、生活習慣が確立されていない家庭が多かったため、子供たちや保護者の方に、そのことについて話す機会をとった。生活習慣を意識しようとする姿が見られた。
- ・親子で触れ合うことについては、室戸ジオパークセンターやむろと廃校水族館の見学を通して達成することができていた。保護者からは「なかなか親子でこういう場所に連れてくることができなのですごく楽しかった。」という声を聞いた。
- ・保護者から「来年もこういう活動があれば、必ず参加したい。」という声がたくさんあった。室戸の自然の中で、親子同士で過ごす時間を満喫していたようである。

#### ○ 事業の課題

- ・今回は、安芸和光寮に呼びかけて参加を募ったが、安芸和光寮のように母子寮で今回のような活動を希望している施設が多い。たくさんの施設が参加できるように伝えていく必要がある。
- ・生活の自立や支援を目的に今回事業を行ったが、いろいろな課題を持った家族が多く、細かい支援ができなかったように感じる。安芸和光寮は、施設の家族同士のコミュニケーションが取れていたが、そうでない施設もたくさんある。そういう施設に対して、どういう支援ができるか考えて事業を計画していく必要がある。
- ・今回、海のプログラム（ドルフィンスイムなど）を考えていたがドルフィンセンターが使えず、内容を変更した。元気な子供たちが多かったため、保護者のアンケートでもあったが、子供が体をたくさん動かす活動プログラムを入れればよかった。

## ボランティア養成講座

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

子供たちの体験活動に関わる上で必要とされる野外活動のスキルや安全管理、体験活動の意義や青少年教育施設の取組の実際について、実習や講義を通して学ぶことにより、ボランティアとして子供たちとともに活動し、自然体験活動の楽しさや喜びを伝えることができる青年の育成を図る。

#### ○ 実施期間

平成30年5月12日（土）～平成30年5月13日（日） 1泊2日

#### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

当施設の法人ボランティアとして活動する意思のある者、小学校等が実施する自然体験活動を支援する意思のある高校生以上の者。 （57名／30名程度）

#### ○ 活動プログラム

| 5月12日(土) |                                                | 5月13日(日) |                        |
|----------|------------------------------------------------|----------|------------------------|
| 11:30    | ガイダンス                                          |          | つどい・朝食・点検              |
| 12:00    | 昼食                                             | 9:00     | 普通救命講習Ⅰ(安全管理)          |
| 12:45    | アイスブレイク（ボランティア活動の技術）                           |          |                        |
| 13:15    | 青少年教育における体験活動（青少年教育）                           | 12:00    | 昼食                     |
| 14:45    | ボランティア活動の意義（ボランティア活動の意義）                       | 13:00    | 青少年教育施設の現状と運営(現状と運営)   |
| 15:45    | 自然体験活動の技術 野外炊事（ボランティア活動の技術）                    | 14:00    | 法人ボランティアの登録制度（登録制度の説明） |
| 18:45    | 入浴                                             | 15:00    | 解散                     |
| 19:30    | 野外炊事から学ぶボランティアの役割<br>（ボランティア活動の意義・ボランティア活動の技術） |          |                        |
| 20:30    | 青少年教育施設におけるボランティア<br>（ボランティアの活動内容の理解）          |          |                        |



## 2. 活動の様子

5月12日(土) <1日目>



実技「アイスブレイク」



講義「青少年教育における体験活動」



講義「ボランティア活動の意義」



実技「自然体験活動の技術 野外炊事」



講義「野外炊事から学ぶボランティアの役割」



講義「青少年教育施設におけるボランティア」

1日目は「アイスブレイク」や「青少年教育における体験活動」「ボランティア活動の意義」「自然体験活動の技術 野外炊事」「野外炊事から学ぶボランティアの役割」「青少年教育施設におけるボランティア」の講義と実習を実施した。講義「ボランティア活動の意義」では、グループワークで、自身のボランティア経験を共有し、ボランティア活動の多様性を再認識するとともに、教育ボランティアに対し、自身の成長を期待する記述が多く見られた。

また野外炊事では、〈材料からメニューを考えて調理する〉が課題として与えられ、各グループで協力し、メニューを考えたり、調理方法を教え合ったりしていた。振り返りでは、今回の野外炊事でのねらいを伝え、ボランティアの関わりとしてプログラムを成立させること以上に、ねらいに近づけるための関わり方が重要であることを自身の体験を通して確認した。

5月13日（日）＜2日目＞



実技「普通救命講習Ⅰ」



講義「青少年教育施設の現状と運営」

2日目は、「普通救命講習Ⅰ」「青少年教育施設の現状と運営」の講義と実習を実施した。

安全管理のスキルを身につけるために、「普通救命講習Ⅰ」を実施した。事故事例・判例を紹介し、安全管理の意識を高めることができた。

また「青少年教育施設の現状と運営」では、当施設及び機構での取り組みを紹介し、してみたい事業をグループで共有し、法人ボランティアへの期待が高まる内容となった。

### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・一つ一つの指導がわかりやすかった。
- ・交流することが多かった。
- ・ボランティアについて定義を理解できた。
- ・これからは、自分達が子供たちに教える側になるのだということをしっかり理解できる養成講座だった。

#### ○ 事業の成果

- ・ボランティアの育成ビジョンのもと、養成講座の位置づけがしっかりとして、ボランティアに伝えるべき内容の整理や、講義の流れがスムーズに進めることができた。
- ・参加者同士の交流も多くとり仲間意識が生まれ、ボランティア登録した後に、事業に参加しやすい雰囲気が作ることができた。

#### ○ 事業の課題

- ・1泊2日で13時間のカリキュラムを実施するとなると、タイトなタイムスケジュールになり、参加者に負担をかけてしまう。しかし、2泊3日の日程で実施できる日取りは、年度初めの時期ではなく、教育事業を進めていくうえで、ボランティアのサポートが不可欠なため、やむなく5月の週末の1泊2日で実施している。プログラムを整理し、参加者に負担が少なく、質のよいプログラムを提供できるよう、運営の改善、内容の検討を行っていきたい。

# 自然の家ジュニアクラブ

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

自然体験活動や集団宿泊体験を通して、子どもたちの自主性、協調性、社会性を育むことを目的とする。

### ○ 実施期間

第1回 平成30年6月16日（土）～17日（日）

第2回 平成30年6月23日（土）～24日（日）

第3回 平成30年7月21日（土）～22日（日）

### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

対象者 小学3、4年生の児童

参加者数 第1回 23名／25名 第2回 53名／50名 第3回 51名／50名

### ○ 活動プログラム

| 1日目（土曜日）               | 2日目（日曜日）             |
|------------------------|----------------------|
| 13：00 はりまや橋バスターミナル 発   | 7：15 朝のつどい           |
| 15：30 室戸青少年自然の家 着      | 7：30 朝食              |
| 16：00 自然の家クラフト（貝がらアート） | 9：00 室戸青少年自然の家 発     |
| 17：30 タベのつどい           | 9：30 ドルフィンセンター 着     |
| 17：45 夕食               | センター見学               |
| 19：00 レクリエーション         | 10：30 室戸市 発          |
| 20：00 入浴・就寝            | 13：00 はりまや橋バスターミナル 着 |

## 2. 活動の様子

### <1日目>

小学3、4年生の児童を対象に参加者を募集し、全3回の開催で計127名が参加した。自然の家までのバスの中では、ボランティアリーダーの大学生たちとレクリエーションを楽しんだ。友だち同士での参加者が多いこともあり、車内はすぐに盛り上がりを見せていた。自然の家到着後は、貝がらなどを使用したアート作成を行った。様々な種類の貝がらや形の違う流木・サンゴを手に、参加者たちは創造力を働かせ、材料を組み合わせ思い思いの作品作りを楽しんでいた。夕食後は再びリーダーたちとレクリエーションを行った。バスとは違い広いホールを使用して行われたゲームでは、参加者たちは所狭しと動き回り、笑顔が溢れる時間となった。入浴後は宿泊室で、新しくできた友だちと会話をしみつつ、就寝した。





### < 2日目 >

2日目は室戸ドルフィンセンターにて、イルカとのふれあい体験を行った。ドルフィンセンターでは、多くの参加者が初めて間近で見たであろうイルカの姿に感動しているようだった。センターのスタッフの許可のもとでイルカに触れたり、大きくジャンプするイルカの水しぶきを全身に浴びたりした際には、参加者たちからは大きな歓声が上がっていた。イルカの他にも室戸の海に生息しているウミガメやサメなど様々な生き物を見ることができ、海への関心を深めたようだった。帰りのバスの中では、名残を惜しむように友だちやリーダーとの会話やゲームを楽しむ姿が見られ、参加者たちの間に友情や信頼が芽生えているのを確認することができた。



### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・ 2日間、とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 夜、せきが出たときに心配してくれたし、わからないことがあったら優しく教えてくれてありがとう。
- ・ 今度は弟も来たいと言っていたので、3年生になったらお世話になります。
- ・ 大変だったと思うけど、あきらめずしてくれてありがとう。またリーダーに会えたらいいな！

#### ○ 事業の成果

- ・ 参加者の名札の裏に活動の予定が書かれていたので、子どもたちは自分で時間を確認し行動することができるようになっていった。
- ・ 最初同じ小学校以外の子とは仲良くなれないと言ったり、ネガティブな発言が多かった子が最後にはみんなと仲良くなっていたり、2泊3日がよかったなあと言っていたり、笑顔と明るい発言が増えた。

#### ○ 事業の課題

- ・ 第2回の際、迎えのバス内にて体調を崩し、活動に参加できないまま夜間に帰宅した子がいた。職員やリーダーがつきっきりで対応することになったので、体調不良の子どもへの対応方法を事前にしっかりと決めておく必要がある。
- ・ 子どもたちのお手本になれていなかった場面があった（イスをしまえていなかった、など）。子どもたちの目を常に意識して行動することを心がける必要がある。



# キャンプ de トライ！（ボランティア自主企画事業）

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

ひとりでは出来ないことや初めてのことに挑戦することで、自ら行動し何事にも前向きに取り組もうとする主体性を養う。

### ○ 実施期間

平成30年8月14日（火）～平成30年8月18日（土）4泊5日

### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学4～6年生 （20名／20）名

### ○ 活動プログラム

|    | 8月14日（火）        | 8月15日（水）           | 8月16日（木）            | 8月17日（金）         | 8月18日（土）         |
|----|-----------------|--------------------|---------------------|------------------|------------------|
| 午前 |                 | 竹きり、細工<br>流しそうめん大会 | 海水浴<br><br>（白浜海水浴場） | シーカヤック           | テント撤収<br>思い出を語ろう |
| 午後 | 受付・開講式<br>テント設営 | 水鉄砲づくり<br>水鉄砲合戦    |                     | 食材買出し<br>野外炊事    | 閉講式<br>（送迎バス）    |
| 夜  | ナイトハイク<br>テント泊  | 野外炊事<br>テント泊       | BBQ<br>テント泊         | キャンプファイア<br>テント泊 |                  |

○

## 2. 活動の様子

### <1日目>

開講式を行った後、テント設営を行った。テント生活班ごとに相談をして、自分たちの生活する動線を考えながら設営場所を決め、協力してテントを設営した。夕食後は施設内外に設定されたミッションポイントを巡るウォークラリーを行った。活動班での最初の活動となるため、チームビルドを目的とした内容設定であった。暗闇の中、星明りとライトを頼りに仲間と声を掛け合いながら様々なミッションに挑むことでチームの絆を深めていった。



### <2日目>

竹細工・竹工作の一日となった。午前中は昼食のために一生懸命に作業をした。竹の節を削り落とし、足をつくり、流しそうめんの仕掛けづくりを行った。自分たちで組み上げた竹樋で食べる

流しそうめんは格別の味だった。竹工作にも慣れた午後の活動は水鉄砲作り。上手く水が飛び出るように微調整を重ねた後は、竹筒に思い思いのペインティングを行った。完成した水鉄砲を使った水鉄砲大会では的当てやチーム対抗合戦で全身ずぶ濡れになりながら暑い夏の日差しを楽しんだ。



### < 3 日目 >

子供たちが一番楽しみにしていた海水浴。前夜からの悪天候で実施が危ぶまれたが、現地に到着した時には雷雲も消え、日差しこそないものの快適な気候となり、蒸



し暑さで火照った体を海水が心地よく包む。ライフジャケットを装着し、バディシステムを遵守した子供たちの周りをボランティアリーダーがガードする安全管理体制の中、次々と沖から押し寄せる巨大なうねりに体を預けながら魚になったように泳ぎ回る活動となった。



自然の家へ戻ると夕食のためのピザ作りを行った。協力しながら生地を捏ね、自分好みのトッピングを載せる。生地の高さや大きさ、形も一人一人が工夫を凝らして自分だけのオリジナルピザを焼きあげた。



### < 4 日目 >

シーカヤックの活動からスタート。これまで過ごした3日間の活動で、仲間同士のチームワークもバッチリ。3人組でカヤックに乗り込むと、すぐに息をぴったりと合わせて漕ぎだすことができた。アメンボのように水面を自由自在に漕ぎまわり海を満喫する活動となった。





午後は室戸市内のスーパーマーケットへ向かった。キャンプ最後の夕食は自分たちでメニューを決めるフィールドクッキングに挑戦した。決められた材料費と作りたい、食べたいものを頭の中で思い比べ、電卓を叩きながら食材を選んでいった。最後の晚餐は最高の晚餐となった。食後はキャンプ最後の夜を思う存分楽しむキャンプファイアを行った。これまでの活動一つ一つを思い出すように燃える炎を見つめる子供の姿が見られた。



#### < 5 日目 >

最終日はテント撤収と思い出の振り返りを行った。5 日間を過ごしたテントサイトも、撤収後は何事もなかったように元の静かな森の姿を見せた。ボランティアリーダーが作製した思い出スライドショーで活動を振り返った後は、感想文を書いた。様々な活動にトライした 5 日間の思い出が次々と溢れかえってくるようで、「もう 1 枚」「もう 1 枚」と多くの子供が追加の感想用紙を求めている。

### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・自分のふだんの生活よりもはやおきをしたりしたので、自分が高められた。(子供)
- ・とてもおもしろくて、いろんなことにトライできたのでうれしい。(子供)
- ・できるようになったことがふえた。(子供)
- ・円滑に進めるための役割分担をする必要を感じた。活動は室戸の「夏」を楽しめるもので、来年以降もこの形がいいと思った(ボランティア)
- ・いろいろなタイプの子供たちがいることに改めて気づいた。対処方法など難しいことも多かったが、子供たちが楽しんでくれたので良かったと思う。(ボランティア)
- ・自分の成長につながるキャンプだったと思います。先輩リーダーの動きを身近に感じることができ、学ぶことがたくさんあって、職員の方も一人一人に合った指導をしてくださったので参加して良かったです。(ボランティア)

#### ○ 事業の成果

・教育事業としての夏のボランティア自主企画事業は初めての開催であった。短い期間の中で企画をまとめ、運営することができたのは、冬の自主企画の経験を経たボランティアリーダーの力量によるものである。法人ボランティアが運営する子供を対象とした中期キャンプも他の国立施設でも例のないものであり、今後もこの取り組みが定着できるように努力したい。

#### ○ 事業の課題

・ボランティアリーダーが主体的、自主的に行う企画であるため、施設職員の効果的な支援が有効に機能することが事業の成否に大きく関わる。所内体制の変化によってボランティアリーダーとの良い関係性が大きく損なわれない事が重要である。室戸ボランティアリーダーの持つ高いポテンシャルが存分に発揮できるよう、職員側の支援体制がさらに充実されることを強く望む。活動内容は他施設にも誇れるものであるため、室戸の好事例として一層の情報発信に努めたい。



# リフレッシュキャンプ in MUROTO

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

様々な自然体験活動を通して、平成30年7月豪雨で被害にあった子供たちの心身のリフレッシュを図る。

### ○ 実施期間

第1回 平成30年8月18日（土）～平成30年8月20日（月）2泊3日

第2回 平成30年8月20日（月）～平成30年8月22日（水）2泊3日

### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

第1回 平成30年7月豪雨で被災にあった小学3年生～6年生 61名／80名

第2回 平成30年7月豪雨で被災にあった小学3年生～6年生 63名／80名

### ○ 活動プログラム

| 1日目            | 2日目                        | 3日目            |
|----------------|----------------------------|----------------|
| 10:30 愛媛発      | 6:00 起床・身支度                | 6:00 起床・身支度・清掃 |
| 12:30 岡山発      | 7:15 朝のつどい                 | 7:15 朝のつどい     |
| 16:45 入所       | 7:30 朝食                    | 7:30 朝食        |
| 17:00 はじまりの会   | 9:00 バス移動（所バス）             | 8:45 退所点検      |
| 17:45 夕食       | 9:30 室戸ドルフィンセンター・むろと廃校     | 9:00 流木クラフト    |
| 19:00 レクリエーション | 水族館の見学（Aグループ）              | 11:00 ふりかえり    |
| 20:00 入浴       | 海水浴と海辺の生き物の観察（Bグループ）       | アンケート記入        |
| 21:00 就寝準備     | 12:00 昼食（ジョハートセンター）        | 11:30 昼食       |
| 21:45 就寝       | 13:30 海水浴と海辺の生き物の観察（Aグループ） | 12:30 おわりの会    |
|                | 室戸ドルフィンセンター・むろと廃校          | 12:40 退所       |
|                | 水族館の見学（Bグループ）              |                |
|                | 16:00 バス移動（所バス）            |                |
|                | 17:30 タベのつどい               |                |
|                | 17:45 夕食                   |                |
|                | 19:00 夜のお散歩・星空観察           |                |
|                | 20:00 入浴                   |                |
|                | 21:00 就寝準備                 |                |
|                | 21:45 就寝                   |                |

※第2回目は荒天のため活動内容を一部変更し「海水浴と海辺の生き物の観察」の時間にキラメッセ室戸鯨館見学と3日目活動予定の流木クラフトを実施し、最終日は巨大手形アートの活動を行った。

## 2. 活動の様子

### <1日目>

岡山県と愛媛県で豪雨の被害にあった小学3～6年生を対象に参加者を募集し、全2回の開催で計124名が参加した。各地からのバスの車内では緊張した表情を見せる児童もいた。自然の家に到着し簡単な自己紹介、つどいの広間へ移動しての参加者、ボランティアリーダーを含めてのレクリエーションでは参加者もボランティアも笑顔がたくさん見えた。入浴後は、宿泊棟で新しく出会った友達と会話を楽しみ、移動の疲れもあり、みんなすぐに眠りについた。

### <2日目>

第1回は天候にも恵まれ、プログラム通りの活動を実施することができた。第2回は、荒天のため海水浴と海辺の生き物の観察を実施することができなかった。代替案として「海水浴と海辺

の生き物の観察」の時間にキラメッセ室戸鯨館見学と3日目活動予定の流木クラフトを実施し、最終日は巨大手形アートの活動を行った。

室戸ドルフィンセンターでは、イルカとのふれあい体験を行った。水族館のようにガラス越しで見学するのではなく、手を伸ばして届く程度の非常に近い距離で、イルカの見せる表情やトレーナーの指示に合わせて動く様々なパフォーマンスを見学した。イルカ以外にも室戸の近海に生息するウミガメやサメなど様々な生き物を観察することもできた。

海水浴と海辺の生き物の観察では、ライフジャケットを着用し、自然の家のシーカヤック等の活動場所である「室戸岬新港」の漁港内で、海水浴と生き物観察を実施した。

泳いでいる目の前を色とりどりの魚たちが横切ったり、サンゴなど手に取ったりして、生き物観察を楽しんだ。

その他、廃校を建て替え校内を水族館として改修した「むろと廃校水族館」、室戸とクジラの歴史を鯨の骨格標本や伝統的な捕鯨船、デジタル資料などで見学することができる「キラメッセ室戸鯨館」も見学した。

施設へ帰ってからは、寄付でいただいたおやつを美味しくいただき、夜は室戸の星空と夜景を満喫し就寝した。



### <3日目>

第1回目参加者は、流木クラフトを、第2回参加者は巨大手形アートを行った。

流木クラフトは、室戸の海岸へ流れ着いた流木を3~5cmに細かく裁断したものを紙やすりで削り、オリジナルのキーホルダーとして形を整えていった。仕上げにオリーブオイルを全体になじませ丁寧に磨き上げ、自分や兄弟、家族へのお土産を作った。



巨大手形アートは、キャンプ最後の活動としてみんなとの思い出作りの1つとして行った。大きな画用紙をつなぎ合わせ1枚の巨大な紙を作り描かれた下絵に絵の具を塗った手で大胆に色を付け、最後に1つ1つをつなぎ合わせて1つの大きな作品を作り上げた。



すべての活動を終え、帰宅する子供たちの中には、3日間がとても思い出に残ったことだと思います。バス乗車時に「また会おうね」「寂しいね」など友達になった人たちと別れを惜しんで帰路につきました。

## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

- ・イルカとふれあった時にイルカが手を振ってくれたのがうれしかったです。海は思っていたよりも冷たくてびっくりしました。
- ・海や魚のことを知れたし、海に流れ着いた流木でのクラフトはとても記念になりました。
- ・どの活動も仲間たちと楽しくできる体験だったから、とっても良かったです。

- ・ 初対面の人が多くて不安だったけど、班の友達が声をかけて不安な気持ちを落ち着かせてくれたことがとてもうれしかったです。

## ○ 保護者の感想

保護者からのお礼の電子メールより抜粋

### 【第1回】

- ・ このたびは、このような企画にお誘いいただきありがとうございました。帰るなり、ご飯のときもお風呂のときも寝るまでずっとキャンプの話でした。「布団の畳み方教えてあげる」「バディって知ってる？私のバディはゆいちゃんだよ」「ご飯おいしかった」「あと1日いたかったなあ」と。4年生のわりに甘えん坊で2泊3日大丈夫かなあと心配していましたが、心配いりませんでした。家を失い、自分の物がなくなってしまいましたが支援物資でいただいた服から選び準備も自分でしました。今までの思い出の品々はなくなりましたが、今回の旅行の思い出はしっかりと心に残ってくれると思います。貴重な経験をさせていただき本当に感謝します。ありがとうございました。

### 【第2回】

- ・ 19時すぎ、元気に帰って参りました。2泊3日、とても楽しかったようで話が止まりません(笑)海に入れなかったのは残念ですが、とてもよい体験をさせて頂いたと思っております。子供たちをいっぱい思い出とともに笑顔で帰宅させていただき、本当にありがとうございました。3日間、お世話になりました。



# 教員免許状更新講習

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動指導法や安全管理のポイントについて実習を通して身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取り扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

### ○ 実施期間

平成30年8月22日（水）～平成30年8月24日（金） 2泊3日

### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

平成31年3月31日及び平成32年3月31日に修了確認期限を迎える小・中学校教諭40名  
10名／ 40名

### ○ 活動プログラム

| 8月22日〔水〕                                                                                                                                                                                                                         | 8月23日〔木〕                                                                                                                                                                               | 8月24日〔金〕                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>開会行事・オリエンテーション<br/>講義「学校教育の現状と課題」<br/>室戸市教育委員会教育長<br/>谷村 正昭 氏<br/>講義「体験活動の安全管理」<br/>次長 瀬沼 健</p> <p>昼食・休憩<br/>講義「体験活動の意義と学習指導要領」<br/>高知大学地域協働学部助教<br/>齊藤 雅洋 氏<br/>講義・実習「体験活動の技術と指導①」<br/>(野外炊事)<br/>企画指導専門職 谷岡 守<br/>入浴・就寝</p> | <p>起床・清掃<br/>朝食<br/>講義「学校における安全な海の活動①」<br/>企画指導専門職 松下 泰山<br/>昼食・休憩<br/>講義「学校における安全な海の活動②」<br/>企画指導専門職 松下 泰山<br/>実習「防災に役立つロープワーク」<br/>主任企画指導専門職 竹島 稔<br/>夕食<br/>入浴<br/>情報交換会<br/>就寝</p> | <p>起床・清掃<br/>朝食<br/>退所点検<br/>講義「体験活動の教育活動への活用」<br/>主任企画指導専門職 竹島 稔<br/>演習「体験活動の技術と指導③」<br/>次長 瀬沼 健</p> <p>昼食・休憩<br/>履修認定試験<br/>閉会行事<br/>解散</p> |

## 2. 活動の様子

8月22日（水）＜1日目＞



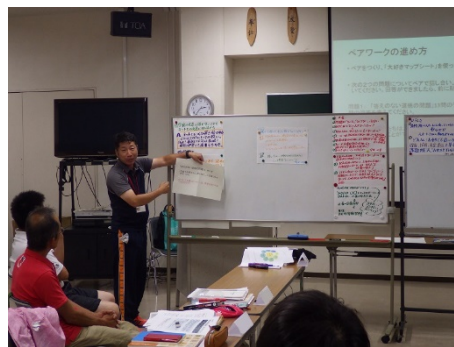
講義「学校教育の現状と課題」



講義「体験活動の安全管理」



講義「体験活動の意義と学習指導要領」



講義・実習「体験活動の技術と指導①～野外炊事～」

1日目は「学校教育の現状と課題」や「体験活動の安全管理」「体験活動の意義と学習指導要領」「体験活動の技術と指導①」の講義と実習を実施した。講義「体験活動の意義と学習指導要領」では、体験活動の意義についての講義とともに、ペアワークをきっかけとして「指導者に求められること」について確認していた。また、体験活動の技術と指導①では、野外炊事の運営上の留意点や用具の取り扱いや環境の整理等、リスクマネジメントの重要性について講義と実習を通して再認識していた。

8月23日（木）＜2日目＞



講義「学校における安全な海の活動①」



講義「学校における安全な海の活動②」



実習「防災に役立つロープワーク」



実習「防災に役立つロープワーク」



2日目は、台風20号の接近により暴風警報や波浪警報が発令され、予定していたシーカヤックとスノーケリングの実習を中止することになった。午前の講義は、「学校における安全な海の活動①」で、ワークショップを実施した。海の活動を実施するにあたっての事前や活動中の安全指導について小グループや全体で話し合った。午後の「学校における安全な海の活動②」では、事故事例等やシーカヤック、スノーケリングについての指導の留意点についての講義だった。また、実習「防災に役立つロープワーク」では、まき結びやもやい結び等の結び方を体験した後、それらの結び方を使ってブルーシートでのテント設営に挑戦した。班で互いに話し合い、工夫し合いながらテント設営をしていた。

8月24日（金）《3日目》



講義「体験活動の教育活動への活用」



演習「体験活動の技術と指導③」





演習「体験活動の技術と指導③」



最終日は、講義「体験活動の教育活動への活用」と演習「体験活動の技術と指導③」「履修認定試験」だった。講義「体験活動の教育活動への活用」では、高知県や徳島県、滋賀県の教育課程についての情報交換や講習で体験した活動をどの教科に位置付けることができるのか話し合った。ロープワークは、総合的な学習の時間や図画工作、社会科等での教科で実施できるのではないかという意見も出た。演習「体験活動の技術と指導③」では、「体験→ふりかえり→気づき→改善　そして次の段階へ」をキーワードに仲間づくりゲームをした。3日目ともなると受講者同士のコミュニケーションも深まり、大いに盛り上がった。体験活動の効果について実感することができた演習であった。

### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・免許更新講習だけでなく、年次研等でこういった内容のものをより多くの先生方に体験してもらいたい。また、管理職研修等でも実施してはどうですか。
- ・講習が少人数であったためワークショップやグルーピングで課題を考えることができとても有意義な研修でした。高知県以外の先生方とも交流ができてよかった。
- ・台風で海に行けなかったのが残念だった。海に行けなくても実際に道具をつけてみるとか、パドルの動かし方をやってみる等の体験がしたかった。
- ・悪天候の際の体験活動を行ってもらいたかった。
- ・海の活動ができなかったのが残念です。

#### ○ 事業の成果

- ・実施できなかった講義・実習以外は受講者の評価もよかった。
- ・講習中の雰囲気がよく、ワークショップやコミュニケーションゲームでは、活発な意見交換が行われた。

#### ○ 事業の課題

- ・海の活動については天候に左右されるため、荒天時の講義の準備が不可欠である。特に、海の活動を体験し今後の教育活動に活かしたいと考えている受講者がほとんどだったため、代替プログラムが今後の課題である。
- ・昨年度2月実施の講習会は1泊2日で49人の参加があったが、今回は2泊3日で10人となった。1泊2日の日程での講習会を希望する教員が多いようである。日程についても検討していく必要があると思われる。
- ・今回の成果と課題を踏まえ、参加者の要望も取り入れながら充実した講習になるように運営の改善、講習内容の検討を行っていききたい。



# 親子でスノーケリング①



## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

海の生物を自分の目で観察することができる「スノーケリング」を通して、海辺の生き物や環境への関心を高めたり、家族間のふれあいを深めたりできる機会を提供することを目的とする。

### ○ 実施期間

平成30年9月1日（土）～平成30年9月2日（日） 1泊2日

### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

保育園年長児・小学1・2年生の児童 11家族／23名

### ○ 活動プログラム

| 9月1日〔土〕                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 9月2日〔日〕                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12:45 海の駅とろむ 集合・受付<br>12:55 海浜活動センターへ移動<br>13:10 海浜活動センター着 着替え、準備<br>13:30 日程説明・活動説明<br>13:40 スノーケリングについての説明<br>14:00 スノーケリングマスクの洗浄<br>14:15 マリンブーツに履き替え<br>グローブのフィッティング<br>14:25 マスクのフィッティング<br>スノーケルクリア練習<br>ウェットスーツ着用<br>15:00 海でのスノーケリング練習<br>15:10 移動<br>15:20 スノーケリング①(坂本海岸)<br>15:50 活動終了・移動・片付け<br>16:20 海浜活動センターへ移動<br>16:45 とろむへバス送迎<br>17:30 自然の家 着 タベのつどい(正面広場)<br>夕食(食堂)<br>18:30 オリエンテーション(オリ室)<br>21:00 就寝 | 6:00 起床・洗面・清掃<br>7:15 朝のつどい(正面広場)<br>7:30 朝食(食堂食)<br>8:15 自然の家 発(自家用車)<br>8:45 海の駅とろむ 集合<br>8:55 海の駅とろむ 出発(所バスで移動)<br>9:00 スノーケリング②(新港北)<br>11:30 活動終了・移動・片づけ・更衣<br>12:00 おわりのつどい |



## 2. 活動の様子

9月1日（土）＜1日目＞

【スノーケリングクリア練習】



### 【海でのスノーケリング練習】



1 日目は、スノーケリング体験の基礎編として、スノーケリングの概略や道具の使い方について説明した。「スノーケリングの各部の説明」、「スノーケリングマスクの洗浄」、「スノーケリングクリア練習」を親子で協力しながら行った。子供たちは、いろいろな活動を通してスノーケリングに興味津々であった。また、親子で楽しく活動している姿がたくさん見られていた。

スノーケリングクリア練習後、坂本海岸に移動してスノーケリング練習や磯の生き物を捕まえたりする活動を行った。雷の影響で活動時間は少なかったが、海の生き物を捕まえてうれしそうにしている子供や水槽に生き物を入れて観察したり、触れ合ったりする姿が見られた。

9月2日（日）＜2日目＞

### 【とろむでのスノーケル体験】



2 日目は、スノーケリング体験の応用編として、前日に学習したスノーケリングの使い方を元に実際に海に入り生き物の観察を行った。小雨の中での活動であったが親子で手をつないで楽しそうに魚を見つけている姿が見られた。1・2年生の児童が多く海で泳ぐことが初めての児童が多かったが、親子で助け合ってスノーケリングを行っていた。雷の影響もあり、海での活動は30分ぐらいであったが家族で生き物を楽しそうに探している姿が多く見られていた。

参加した家族の中には、「また室戸に来てスノーケリングなど、海の活動を子供がやりたいと言っているので連れてこようと思っています。」と話してくれた。今回の活動を通して、スノーケリング活動の楽しさが家族の中に感じられたのではないかなと思われる。また、家族愛を深めることもできたと思う。



### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・登校日チラシで知りました。とても良い内容だったので、夏休み前にチラシをはさんでいただければ、もっと周知できるのではないかと思います。また参加したいです。
- ・今年は、天候があまりよくありませんでしたので、天候が良い時に再チャレンジしたいです。
- ・スノーケリング以外の活動もあれば参加してみたいです。(カヤックなど)
- ・天候が悪かったこともあり、全体的に待ち時間が多くあった事や天候で時間短縮になった時などどうするのかなど気になりました。
- ・お天気が少し残念でしたが、指導の先生やボランティアの方々の対応がとても良く、楽しめました。海の生き物がたくさん見られて子どもも私もうれしかったです。

#### ○ 事業の成果

- ・親子でスノーケリングをする機会があまりとれないので、今回の事業をすごく楽しみにしている家族が多かった。親子の仲睦まじい姿をたくさん見る事ができた。
- ・悪天候のためにプログラム通りいかない場合もあったが、少しでもスノーケリング体験をさせたいと考えて取り組んだ。活動時間は少なかったが、子供たちからは「海の生き物が見られてよかった。」という感想も聞いた。スノーケリングの楽しさを少しではあるが感じる事ができたと思う。「次もスノーケリングをやりたい」という意識を高める事ができた。
- ・今年も株式会社タバタ様に協賛いただき、スノーケルマスクの廉価提供と販促グッズ(防水カプセル)の提供することができた。親子でスノーケリングのグッズが揃ったことで、家族で海に出かける機会が増えると思われる。

#### ○ 事業の課題

- ・第1回親子でスノーケリングは、11組23名の参加で事業が行われた。昨年は、7月開催で夏休み期間でもあったのでたくさんの方が参加されていたが、今年度は申し込みも少なかった。参加者が参加しやすい時期に実施できるように計画を立てる必要がある。
- ・事業のお知らせを早くして、たくさんの方に周知すると参加者も増えると考えられる。
- ・今年は、台風など影響で計画したプログラム通りできない場面が多かった。天候が悪くても親子で活動できるプログラムをしっかりと考えなければならない。



## 第2回 親子でスノーケリング



### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

親子を対象に、スノーケリングを通して、海辺の生き物や環境への関心を高め、家族間のふれあいを深める。

#### ○ 実施期間

平成30年9月8日（土）～平成30年9月9日（日）1泊2日

#### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

年長児及び小学1・2年とその保護者 3組6名／10組20名

#### ○ 活動プログラム

| 9月8日〔土〕                                      | 9月9日〔日〕          |
|----------------------------------------------|------------------|
| 12:45 海の駅とろむ 集合・受付                           | 6:00 起床・洗面・清掃    |
| 12:55 海浜活動センターへ移動                            | 7:15 朝のつどい(正面広場) |
| 13:10 海浜活動センター着 着替え、準備                       | 7:30 朝食(食堂食)     |
| 13:30 日程説明・活動説明                              | 8:30 自由時間        |
| 13:40 スノーケリングについての説明                         | 10:00 流木クラフト     |
| 14:00 スノーケリングマスクの洗浄                          | 11:30 おわりのつどい    |
| 14:15 マリンブーツに履き替え<br>グローブのフィッティング            |                  |
| 14:25 マスクのフィッティング<br>スノーケルクリア練習<br>ウェットスーツ着用 |                  |
| 15:10 移動                                     |                  |
| 15:20 スノーケリング(とろむ)                           |                  |
| 15:50 活動終了・移動・片付け                            |                  |
| 16:20 海浜活動センターへ移動                            |                  |
| 16:45 とろむへバス送迎                               |                  |
| 17:30 自然の家 着 タベのつどい(正面広場)<br>夕食(食堂)          |                  |
| 18:30 オリエンテーション(オリ室)                         |                  |
| 21:00 就寝                                     |                  |

### 2. 活動の様子

#### <1日目>

当日は、悪天候が予想されたが、午後からは晴れ間も見え、無事スノーケリング活動を行うことができた。まず、海浜活動センターでスノーケリングマスクの正しい使い方や保存方法について学んだ。また、水槽を活用し、親子で協力してスノーケルクリアの練習も行った。初めは上手にできない子供もいたが、繰り返し練習をすることで、正しいスノーケルクリアの仕方を身に付けることができた。その後、室戸岬新港のとろむでスノーケリング活動を行った。親子でバディとなり、海にいる様々な生き物を観察した。魚の模様や色に注目して、楽しみながら活動している姿が多く見られた。



### < 2日目 >

2日目は、雨天のため、スノーケリング活動から流木クラフトに変更した。紙やすりを3種類使用し、自分で選んだ流木を時間をかけて磨き上げた。親子ともに熱中して活動に取り組む姿が見られた。最後の仕上げにオリーブオイルを塗って、オリジナルの流木キーホルダーを作ることができた。スノーケリング活動を行うことはできなかったが、流木クラフトの活動を通して、親子のふれあいの時間を十分にとることができた。



## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

- ・ 天気が心配だったが、無事1日目にスノーケリング活動ができてよかった。
- ・ ボランティアが、子供と仲良く遊んでくれて嬉しかった。
- ・ いろいろな模様の魚を見ることができてよかった。
- ・ 流木クラフトをお土産として持って帰ることができてよかった。

### ○ 事業の成果

- ・ スノーケリングの活動を通して、親子でふれあう機会をとることができた。
- ・ スノーケリングマスクの洗浄や保存方法について、正しい知識を身に付けることができた。
- ・ 普段は経験することのできないスノーケリング活動を通して、様々な海の生き物を観察することができた。

### ○ 事業の課題

- ・ 第2回親子でスノーケリングでは、10組20人募集のところ、3組6人の参加者で事業を行った。台風の影響もあり、参加者を確保することができなかった。チラシの配布時期や事業の実施日を再検討する必要があると感じた。
- ・ 今回は、急遽、雨天時のプログラムとして流木クラフトを行ったが、事前の計画段階で活動内容をしっかりと決めておく必要がある。参加者の感想でもあったように、スノーケリングができない場合に、魅力あるプログラムを提供できるように準備しておく必要があると感じた。

# 自然体験活動指導者養成研修(NEAL リーダー)

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者（NEAL リーダー）を養成する。

### ○ 実施期間

平成30年9月27日（木）～平成30年9月29日（土）2泊3日

### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

自然体験活動を指導する意思のある18歳以上の方 （16名／30名）

### ○ 活動プログラム

|    | 9月27日（木）                                                                                 | 9月28日（金）                                                   | 9月29日（土）                                            |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 午前 |                                                                                          | 講義・実技<br>「自然体験活動の技術①」（3.0h）                                | 講義・実技<br>「自然体験活動の技術②」（3.0h）                         |
| 午後 | 13:00 受付・開講式<br>ガイダンス（0.5h）<br>講義<br>「青少年教育における体験活動」（1.5h）<br>講義・実技<br>「自然体験活動の指導」（1.5h） | 講義・実技<br>「自然体験活動の特質」（3.0h）<br>講義・演習<br>「自然体験活動の安全管理」（3.0h） | 認定試験（0.5h）<br>事務手続き説明（0.5h）<br>閉講式<br>14:30 送迎バス 出発 |
| 夜  | 講義<br>「対象者理解」（1.5h）                                                                      |                                                            |                                                     |

## 2. 活動の様子

### <1日目>

NEAL 制度の仕組み、NEAL リーダーの役割を理解するガイダンスの後、小野保所長より「青少年教育における体験活動」の講義を行った。青少年教育の目的・目標について紹介があった後、体験活動の意義や効果について学んだ。講義のまとめとして、「子どもゆめ基金の助成を受けて事業を実施する」という想定のもとに、事業の模擬プランを作成するワークショップを実施した。「自然体験活動の指導」では瀬沼健次長が指導者としての基本的な心構えについての講義を行った。「対象者理解」では菱川裕輝事業推進係員より対象者理解の必要性と方法、各年齢期の特徴理解、対象者への配慮事項について講義があった。





### < 2日目 >

「自然体験活動の技術①」では野外炊事を題材に瀬沼次長、成松恵事業推進係員が演習指導を行った。ダッチオーブンを使用してローストチキンを調理し昼食を兼ねた。菱川係員が担当した「自然体験活動の特質」では森の中に活動の場を移し、木々や落ち葉を用いたネイチャーゲームを織り交ぜながら地域の自然体験活動の特色を理解する内容を学んだ。「自然体験活動の安全管理」は松下泰山企画指導専門職がKYT(危険予知トレーニング)をもとに、安全管理がすべての自然体験活動プログラムの土台となることを講義した。



### < 3日目 >

「自然体験活動の技術②」では瀬沼次長より様々な自然体験活動のプログラム紹介の他、プログラムにはそれぞれの狙いがあり、導入・展開・まとめの構成のなかで魅力的で楽しく感動を伝えられることが大事であることが提示された。講義・演習のまとめとして認定試験を行い、参加者 16 名全員が合格し、NEAL リーダーとしての資格認定を受けた。



## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

- ・指導者として必要な事、大切なことを多く学びました。
- ・これからの活動に役立つことを学ぶことができてよかった。実際に体験をして楽しみながら学ぶことが出来た。
- ・学ぶこと、考えさせられること、楽しいことがたくさんあり充実した2泊3日でした。

### ○ 事業の成果

- ・体験を重視し、講義で内容理解を深める組み立てを行ったことで、参加者から高い満足度を得られた。参加者の大多数は、既に法人ボランティアとしてアクティブに活動している方たちであるため、受講意欲も非常に高く、効果的な研修となった。また法人ボランティアとしてのスキルアップ研修、フォローアップ研修の位置づけとしても実施することが出来た。

本年度はボランティア養成講座との連続開催から切離して3日間の日程を独自にとる試みを行ったが、前述の成果が見られたことから次年度以降も同様の形態で実施していきたい。

### ○ 事業の課題

- ・事業予算の見直しから本年度は外部講師を招聘せず、所内の NEAL コーディネーター・主任講師資格者にて対応した。このことによって、参加者満足度や講習内容の低下は認められなかったが、受講者に外部講師の講義演習を提供する貴重な機会を逸することとなったのは担当者として非常に残念に思う。
- ・本年度は9月に開催したが、主たる受講者として想定している大学生にとっては集中講義、実習との日程調整に苦労があった。次年度は10月の連休を予定しているが、例年の開催日程を固定化できるよう、今後数か年の取り組みの中で模索していきたい。

## イングリッシュキャンプ（外国語活動）

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

仲間とともに宿泊し、英語を使って様々な体験活動を行うことをとおして、小学校外国語活動の目標であるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成に寄与するとともに、グローバル視点を持ち、地域で意欲的に活動することができる青少年を育成する。

#### ○ 実施期間

平成30年11月15日（木）～平成30年11月16日（金） 1泊2日

#### ○ 対象者・参加者数

南国市立長岡小学校4年生 39名

#### ○ 指導者等

国立室戸青少年自然の家職員2名

ボランティア6名

（ベルギー2名、デンマーク1名、ドイツ1名、アメリカ1名、イギリス1名）

#### ○ 活動プログラム

2日間の活動プログラムは、原則1人のボランティアと8人の児童によるグループ活動として行った。

| 11月15日（木）                             | 11月16日（金）        |
|---------------------------------------|------------------|
| 13:15 長岡小出発                           | 6:00 起床          |
| 15:30 自然の家到着                          | 7:30 朝のつどい       |
| 入所オリエンテーション（職員）                       | 7:45 朝食          |
| 15:45 外国人ボランティアとオリエンテーション「ミッションゲーム」※1 | 8:45 退所点検        |
| 17:00 タベのつどい                          | 9:00 交流活動        |
| 17:15 タ食・自由時間                         | 「流木クラフト」※2       |
| 19:00 キャンプファイア                        | 「インターナショナルゲーム」※3 |
| 20:00 入浴                              | 12:00 昼食         |
| 22:00 就寝                              | 13:00 おわりのつどい    |
|                                       | 13:15 自然の家発      |
|                                       | 15:30 長岡小到着      |

※1「ミッションゲーム」：英語の説明による7の課題に挑戦する活動

（活動の例：「好きな動物を英語で表現」、「全員で長縄を20回英語でカウントして飛ぶ」等）

※2「流木クラフト」：流木の木片を紙やすりで磨きストラップを作成する創作活動

※3「インターナショナルゲーム」：ボランティアの出身国で行われている様々なレクリエーションを体験する活動

## 2. 活動の様子

### <1日目>

オリエンテーションでは、ボランティアが自国語と英語で自己紹介をし、国旗を元に出身国当てクイズを行った。ゲームでハイタッチをするなどスキンシップを取り入れ雰囲気作りを行った。はじめは緊張していた児童もハイタッチを繰り返す中で表情が柔らかくなった。

ミッションゲームの課題を解決していく中で、児童自身の知っている英単語を活用するなど英語を使いコミュニケーションを取ろうとする場面が見られ始め、ボランティアの英語による呼びかけにも自然な態度で聞くことができはじめる等つながりを深めていった。

ボランティアと一緒に夕食やベットメイキングといった活動をとおして、ボランティアが何を伝えたいかを一生懸命聞く児童の姿が随所に見られた。

キャンプファイアでは、英語によるゲームやダンスを楽しむことができた。このころになると児童はだいぶ英会話になれてきており、予想以上に会話が成立していることに驚かされた。



### <2日目>

児童はボランティアと一緒に寝具の後片付けを行った後、朝食をとった。昨日よりもボランティアとの会話の量が増加していた。

当初、流木クラフトは、会話がいない活動として導入したが、予想以上に児童は英会話になれてきており、作業をしながら児童と打ち解け教え合う姿が見られた。

インターナショナルゲームでは、ボランティアが自分の出身国のレクリエーションゲームを教えに行った。児童は経験したことのないゲームであったが英語による説明を理解してゲームを楽しむことができた。

おわりのつどいの後、ボランティアによる見送りの場面では、児童が英語でお礼を言ったり、話しかけたりして別れを惜しむ児童の姿が見られた。



## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

- ・私は、あまり英語は得意じゃないけど外国の方と話すことで少しでも覚えることができた。
- ・英語でしゃべっていることは完全にわからなかったけど、何を言いたいかわかる気がしました。

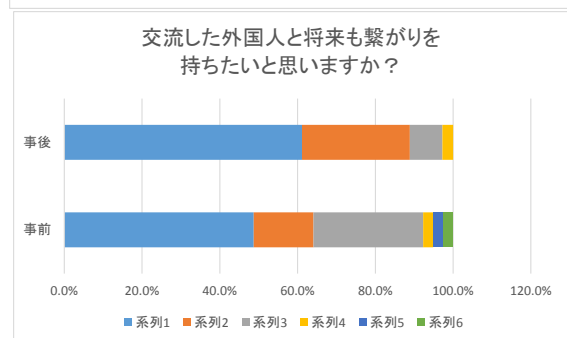
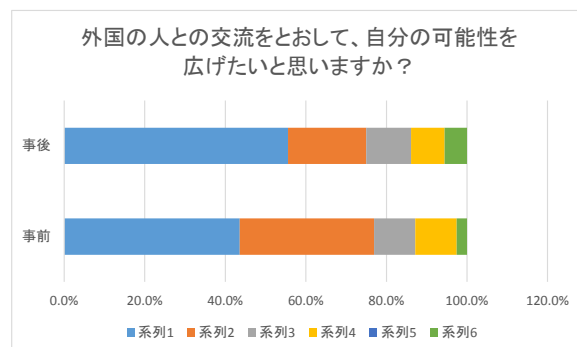
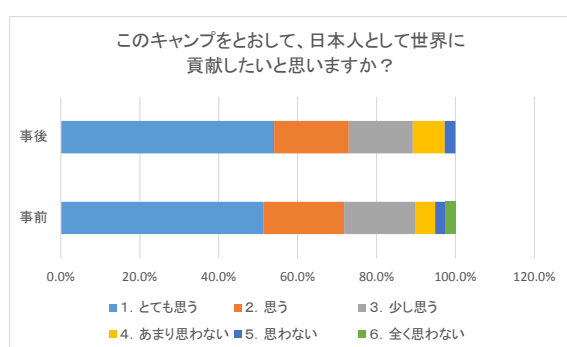






## ○ 事業の成果

- ・外国人とふれあう経験が少なかった児童にとり、ボランティアの英語によるコミュニケーションが充実した経験となり、外国語活動への意欲の向上が見られた。
- ・少人数グループにボランティアが配置されたことから児童一人一人の英語に触れる機会が多く、充実した外国語活動の授業となった。



## ○ 事業の課題

- ・学校のスケジュールとボランティアの来日のスケジュールを調整すること。
- ・特別な支援が必要な児童がいる場合の対応。

# 一歩ふみだせ わいわいキャンプ(ボランティア自主企画事業)

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

参加者が他者との対話を繰り返し、そこで生まれた意見を活動に取り入れ実践することで、各自の考えや自他の存在を尊重する意識を養う。

### ○ 実施期間

平成30年12月15日(土)～平成30年12月16日(日) 1泊2日

### ○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4～6年生 (49名/70名)

### ○ 活動プログラム

|    | 12月15日(土)                                       | 12月16日(日)                       |
|----|-------------------------------------------------|---------------------------------|
| 午前 | 9:30 送迎バス 出発                                    | あさのつどい 朝食<br>仲間と一緒にウォークラリーチャレンジ |
| 午後 | 受付 昼食 はじまりのつどい<br>世界に一つ!オリジナルキャンドルづくり<br>タベのつどい | 昼食 おわりのつどい<br>14:00 送迎バス 出発     |
| 夜  | 夕食<br>輝け想い★キャンドル de ナイト<br>入浴・就寝                |                                 |

## 2. 活動の様子

### <1日目>

アイスブレイクで緊張をほぐして班の友達と仲良くなった後、森へ入り、キャンドルの材料を集めた。世界で一つだけのオリジナルキャンドルを完成させるために、木の実や木の葉、小枝や石などを集めて自分の容器に配置し、ジェルワックスを封入した。

夕食後はそのキャンドルを用いてのキャンドルファイアを行った。ボランティアリーダーと一緒に大きな声で歌い、様々なゲームで楽しんだ。



## < 2日目 >

所内いたるところに仕掛けられたミッションブースを回るウォークラリーを行った。時間内に回りきれないほどのミッションブースが配置されているので、各班それぞれが作戦を立ててからスタートした。効率よいルートを選ぶ班、移動距離が長くても高得点を狙う班、得点を小さくコツコツと積み上げていく班と、それぞれの班の個性がみられた活動となった。



## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

- ・キャンドルのざいりょうをあつめるのにもくろうしたし、かざるのもくろうしたけど、作った後のキャンドルファイアーはとてもきれいだったのですっきりしました。
- ・キャンドル作りはいろいろな植物をとりながらきれいにできてよかった。
- ・このキャンプをとおしてたくさんの仲間と交流を深めることができました。最初のほうはあまりだれとも話さなかったけど時間がたっていくと少しずつみんなと仲良くなることができました。
- ・ウォークラリーはいろいろな意見を出しながらできた。
- ・ウォークラリーで自分の意見がみんなに言えたところがよかった。
- ・

### ○ 事業の成果

- ・室戸ボランティアリーダーが6か月の時間をかけて作り上げた自主企画であった。参画するボランティアが時間をかけて一つずつ段階を踏みながら企画立案から当日運営まで行うが、これまでの活動経験や蓄積された引継ぎ資料が活用されることで、内容が洗練されたものとなった。

### ○ 事業の課題

- ・別事業との日程調整のため、開催期日が二転三転したことでボランティアリーダーに大きな負担をかけた。所内での「ボランティア自主企画」への位置づけが曖昧となってしまったことが主因としてあげられる。冬の自主企画は初めて大学1, 2回生が主体となって行う事業のため、これまではハード、ソフトの両面で最大限の支援をしてきたが、本年度は受け入れ態勢を十全に整えることができなかった。種々の事情や制約はあるが、ボランティアが最大限の力を発揮できる環境を整えるための理解が必要であると考え。



# サイエンスキャンプ

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

海洋教育に関連する理科の実験・観察を通して、室戸の土地の成り立ちや生態系についての興味・関心を高める。

### ○ 実施期間

平成30年12月23日（日）～平成30年12月24日（月）1泊2日

### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学4年生から6年生までの児童 36名／40名

### ○ 活動プログラム

| 12／23（日）              | 12／24（月）              |
|-----------------------|-----------------------|
| 9:30 はりまや橋観光バスターミナル発  | 6:30 起床・洗面・清掃         |
| 10:00 美波町役場由岐支所発      | 7:30 朝のつどい            |
| 12:00 海浜活動センター着       | 朝食【食堂】                |
| 昼食【海浜活動センター】          | 自主点検                  |
| 12:45 開講式             | 9:30 自然の家発            |
| 13:00 理科実験            | 10:00 慎太郎像前着          |
| ①プランクトンネットを作ろう        | 岬探勝                   |
| ②プランクトンを捕まえよう         | 11:00 慎太郎像前発          |
| ③プランクトンを観察しよう         | 11:15 ジオパークセンター着      |
| 16:00 海浜活動センター発       | 昼食【ジオカフェ】             |
| 16:30 自然の家着           | 12:15 閉講式             |
| 17:00 タベのつどい、夕食【食堂】   | 12:30 ジオパークセンター発      |
| 18:30 入浴              | 14:30 美波町役場由岐支所着      |
| 19:30 アオリイカの体のつくりを知ろう | 15:00 はりまや橋観光バスターミナル着 |
| 21:00 班会              |                       |
| 22:00 就寝              |                       |

## 2. 活動の様子

### <1日目>

1日目は、海浜活動センターで昼食をとり、3つの理科実験・観察を行った。まず、洗濯物ネットやフィルムケースを使って「自作プランクトンネット」を作成した。初めて作るプランクトンネットに興味を持ち、楽しんで活動に取り組むことができた。次に、自作したプランクトンネットを使用し、プランクトンの採取をした。海の駅とろむまでバスで移動し、班ごとに活動を行った。班で相談しながら採取場所を決め、楽しそうに活動している様子が多く見られた。採取後は、海浜活動センターに戻り、プランクトンの観察を行った。双眼実体顕微鏡を用いることで、海洋プランクトンを観察することができた。

夕食後は、アオリイカの体のつくりについて学習した。イカとタコの違いについて学んだ後、ハサミを使って解剖を行った。初めて行う解剖に戸惑いながらも、班で協力して体の中を観察することができた。その後、墨汁のうを取り出し、墨絵体験を行った。筆を上手に使い、海の生き物の絵を描くことができた。



## < 2日目 >

2日目は、室戸岬で岬探勝を行い、大地のつくりについて学習した。まず、「地震発生説明器」を使用して、地震の発生に関する実験を班ごとに行った。次に、自然の家で作成した「付加体実験装置」を使用して、付加体のでき方についての実験を行った。実験を通して、付加体の発生原理について詳しく知ることができた。参加者からは、「なるほど！分かった！」といった声を聞くことができた。



### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・友達と協力して、プランクトンを捕まえることができた。
- ・プランクトンネットが深く沈むように、おもりのつける場所を工夫した。
- ・友達がたくさんできてよかった。
- ・顕微鏡でたくさんプランクトンを観察することができた。
- ・墨絵を描くのがとても楽しかった。
- ・イカの体の中を見ることができてよかった。

#### ○ 事業の成果

- ・理科の実験や観察を通して、地震の発生や付加体の形成について学ぶことができた。
- ・双眼実体顕微鏡を用いて様々な種類のプランクトンを観察することができた。
- ・アオリイカの解剖実験を通して、「体のつくり」や「タコとイカ」の違いについて詳しく知ることができた。

#### ○ 事業の課題

- ・自作プランクトンネットを使用して採取を行った際、ロープが絡んでほどけなくなり、活動に集中できない参加者がいたので、紐をまとめるものを準備しておく必要があると感じた。
- ・解剖実験用のアオリイカを確保することが困難であった。当日、確実に必要数を確保できるようにしておく必要がある。
- ・今回の予算で購入した「地震発生説明器」や「プランクトンネット」及び作成した「付加体形成装置」については、今後学校への広報を行い、岬探勝や雨天時のプログラムで利用団体へ提供していきたい。



## 教員免許状更新講習

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動指導法や安全管理のポイントについて実習を通して身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取り扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

#### ○ 実施期間

平成31年2月9日（土）～平成31年2月10日（日）1泊2日

#### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

17名／40名

#### ○ 活動プログラム

| 2月9日〔土〕                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 2月10日〔日〕                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>開会行事、オリエンテーション<br/>                     講義「体験活動の意義と学習指導要領」<br/>                     四国学院大学総合教育センター教授<br/>                                                                     清水 一 氏<br/>                     講義「学校教育の現状と課題」<br/>                     高知大学教職大学院教授<br/>                     高知県教育委員会教育委員<br/>                                                                     永野 史 氏<br/>                     演習「体験活動の技術と指導①」<br/>                                                                     次長 瀬沼 健<br/>                     講義・実習「体験活動の技術と指導②」<br/>                                                                     企画指導専門職 谷岡 守<br/>                     講義「体験活動の教育活動への活用」<br/>                                                                     主任企画指導専門職 竹島 稔<br/>                     入浴・就寝</p> | <p>起床・洗面<br/>                     朝のつどい・朝食<br/>                     講義「体験活動の安全管理」<br/>                                                                     企画指導専門職 松下 泰山<br/>                     講義・演習「体験活動の技術と指導③」<br/>                                                                     室戸ジオパーク推進協議会地理専門員<br/>                                                                                     中村 有吾 氏<br/>                     履修認定試験<br/>                     閉会行事<br/>                     解散</p> |

### 2. 活動の様子

#### < 1日目 >



講義「体験活動の意義と学習指導要領」



講義「学校教育の現状と課題」



演習「体験活動の技術と指導①」



演習「体験活動の技術と指導①」



講義・実習「体験活動の技術と指導②」



講義「体験活動の教育活動への活用」

1 日目は「体験活動の意義と学習指導要領」や「学校教育の現状と課題」「体験活動の技術と指導①」「体験活動の技術と指導②」「体験活動の教育活動への活用」の講義と演習、実習を実施した。「学校教育の現状と課題」では、チーム学校の構築をテーマとして自校の課題や今後の取組等について、受講者同士が情報交換し合った。また、「体験活動の教育活動への活用」では、集団宿泊活動を効果的に実施するためのカリキュラムマネジメントについての確認後、活動を教科等に関連付けた集団宿泊活動実施計画の作成を行った。

## < 2 日目 >



講義「体験活動の安全管理」



講義・演習「体験活動の技術と指導③」





そっくりさんを探せ（室戸岬）



土佐日記石碑見学（室戸岬）



タービダイト見学（室戸岬）



御厨人窟見学（室戸岬）

2 日目は「体験活動の安全管理」や「体験活動の技術と指導③」の講義・演習を実施した。「体験活動の技術と指導③」では、「室戸ユネスコ世界ジオパーク」を教材に、「荒波オーケストラ」や「そっくりさんを探せ」等の室戸岬の体験学習プログラムを実際に体験しながら歩いた。演習と講義を通して受講者同士のコミュニケーションも深まり、体験活動の効果について実感することができた。

### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・自分の知らないことを知る喜びを味わい、子供たちへどのように返していくかを考えることができた。
- ・活動をしていくことで、体験活動の気づき、自分の中へ落ちるということが知れてよかったです。
- ・安全に活動し、命を守り、活動を終えることの重大さを改めて認識できました。
- ・野外活動の教科化ができることを知り、大変勉強になりました。
- ・チーム学校という発想、子供たちの笑顔のために働きやすい職場のありかた、学校教育現場の課題と現状について考えさせられました。

#### ○ 事業の成果

- ・受講後の「免許状更新講習受講者評価書」の評価を見ると、「総合評価」「よい」が 94.1%、「だいたいよい」が 5.9%であった。講習内容についての満足度はかなり高い評価を得ることができた。

#### ○ 事業の課題

- ・昨年度より受講希望者が減少しているため、学校への要項発送時期やホームページの掲載時期を早めて受講者の増加を図りたい。
- ・本講習は 2 日間の講習でありがたいという声もあるが、18 時間の講習を実施しており、通常の 3 日間よりハードな講習会となる。受講者の体調面に留意して運営する必要がある。



# ふれあい通学合宿



## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

子供たちが家族から離れ、他校の子供と共同で生活し日常的な生活体験を自分たちの力でいうことをとおして、子供たちの社会性・自主性などの「生きていく力」の育成を目指す。

### ○ 実施期間

平成31年2月27日（水）～平成31年3月3日（日）4泊5日

### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

室戸市内の小学校5・6年生 52名／50名

### ○ 活動プログラム

|   |                                                                     | 2/27（水） | 2/28（木）                                          | 3/1（金）                                           | 3/2（土）                                            | 3/3（日）                                         |
|---|---------------------------------------------------------------------|---------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 朝 | 6:00<br>6:50<br>7:15<br>7:30<br>9:00<br>10:00                       |         | 起床・洗面<br>朝食<br>登校                                | 起床・洗面<br>朝食<br>登校                                | 起床・洗面<br><br>朝のつどい・朝食<br>学習・読書<br>クラフトづくり         | 起床・洗面<br><br>朝のつどい・朝食<br>部屋の片付け<br>10:00 自然の家発 |
| 昼 | 12:00<br>13:00<br><br>16:10<br>16:45                                |         | 学校（給食）<br><br>各小学校出発<br>自然の家着                    | 学校（給食）<br><br>各小学校出発<br>自然の家着                    | 昼食（食堂）<br>レクリエーション<br><br>野外炊事<br>カレーライス・ピザ       |                                                |
| 夕 | 17:00<br>17:15<br>17:15<br>18:30<br>19:30<br><br>20:00<br><br>21:30 |         | 夕食<br>学習・読書<br>活動<br><br>入浴<br>1日の振り返り<br><br>就寝 | 夕食<br>学習・読書<br>活動<br><br>入浴<br>1日の振り返り<br><br>就寝 | お別れパーティ<br><br><br>入浴<br>全体の振り返り<br>荷物をまとめる<br>就寝 |                                                |

## 2. 活動の様子

### < 2月27日（水） >

室戸市内5つの小学校の5・6年生52名が参加してふれあい通学合宿がスタートした。水曜日スタートということで子供たちが自然の家に到着したのは午後5時前であった。第1集会室でオリエンテーションを行い、ふれあい通学合宿のねらいや目標などを確認した。そして、アイスブレイキングを行い、他校の子供たちとの交流を深めた。初めて参加の子供たちにとっては良い活動にな

り緊張していた表情が和らぐ姿が見られた。その後の夕食でも班ごとで食べて絆を深めるものとなった。夕食後、子供たち全員が第1集会室で宿題を行った。静かに集中して取り組んでいた。宿泊棟での班会で健康観察や一日の振り返りを行った。明日から登校なので子供たちは午後10時には布団に入り眠った。まだみんなに打ち解けていない子供の緊張した表情が気になった。

<2月28日(木)>



朝6時に起床し、布団の整頓をした後、午前6時40分から朝食をとった。普段、子供たちは早い時間帯に朝食を食べる経験がないので心配をしていた。しかし、子供たちは決めた時間内に班ごとに揃って食事をしていた。野菜はあまりとらなくて量も少なめであった。朝ごはんをしっかり食べることやバランスの良い食事をとることに課題が見られた。

朝食後、午前7時15分に自然の家のバスで登校した。子供たちは、初めて、自然の家から学校へ登校することに

なったが、ボランティアリーダーのサポートで無事に登校することができた。登下校の際、ボランティアリーダーと一緒に登校したり、学校へ迎えに行ったりして交通安全面に配慮した。子供たちはボランティアリーダーと一緒に登校することで喜びや安心を感じていたようである。自然の家から学校への登下校は3日間だったが、子供たちが元気に通学するために就寝時間を守るように注意を促した。子供たちは、就寝時間のことをしっかり守ろうとする姿が見られていた。

<3月1日(金)>

学校から下校後、夕食をとって学習に取り組んだ。学習の目標は、主に学校から出されている宿題を自分の力で集中してやること、学習習慣を身に付けることである。そのために、毎日1時間の学習時間を設けた。子供たちは静かに集中して、自分のペースでコツコツと取り組んでいた。自学自習の習慣を身に付けさせるためにボランティアリーダーの支援は、どんな問題もまず自分で考えさせて問題を解かせることとした。子どもたちは、教科書や辞書などを使って問題を解く姿が見られた。宿題が終わった後、ボランティアリーダーが点検をしてアドバイスをを行った。早く終わった子供には自主学習に取り組むよう声掛けしたり、読書をさせたりした。子供たちの中には、職員やボランティアリーダーに課題を出してもらい必死に解こうとしている姿も見られた。まわりの友だちがまだ宿題をしているので自分もがんばらなければという気持ちで取り組んでいるように見られた。ただ、学習をしている子供を見ていて、鉛筆の持ち方や正しい学習姿勢などが気になった。





### < 3月2日（土） >



休日のため、施設で流木クラフトやレクリエーション、野外炊事の活動に取り組んだ。午前中は、流木クラフトを行った。流木を三種類のペーパーで磨きキーホルダーを作った。天気が良かったので、展示棟の駐車場で室戸岬を眺めながら行った。4日目になり他校の友だちと楽しそうに話をしながら取り組んでいる姿が多く見られだした。子供たちは最後まで流木を磨き、一人ひとり特徴のあるキーホルダーが完成した。子供たちに「素敵なきーホルダーができたね。」と声

をかけると、にっこり笑ってうれしそうな表情を見せてくれた。

午後からは、ボランティアリーダーとレクリエーションをしたり、野外炊事でカレーライスやピザを作ったりした。お別れパーティはキャンドルファイアを行った。野外炊事では、仕事の役割を決めて取り組ませた。家庭であまり刃物を使ったことがないということを聞いていたので心配していたが、ボランティアリーダーが声かけをしてくれたので楽しそうに野菜の皮むきなどをしていった。自分たちの力でがんばって作ったカレーライスとピザだったので、「美味しい。美味しい。」と言いながら食べていた。翌日にバスケットボールの試合があるため、6名の子供たちがキャンドルファイア後に帰宅した。正面広場に全員が集まり、友だちの名前を呼びながら手を振り見送った。子供たちは活動を通して、友だちの素晴らしさや大切さを感じることができたようだった。



### < 3月3日（日） >

最終日、朝起きてから自分が使った部屋の掃除や片付けを行った。使ったシーツや掛け布団を友だちと協力しながら行っていた。4泊5日の交流で絆が深まり、友だちに気軽に「手伝おうか。」などの声をかけながら行っていた。掃除も、「使う前よりもきれいに」を心がけながら隅々まで行っていた。掃除終了後、第1集会室に集まり、ふれあい通学合宿の振り返りを行った。4泊5日の生活を振り返ったり、自分の成長を発表したりしてみんなで共有した。

子供たちのほとんどが、新しい友だちができた喜びや自分でできることが増えたことなどを発表していた。バスに乗って帰る時、新しい友だちやボランティアリーダーとの別れを惜しむ姿が見られた。5年生の子供たちの中には、来年もふれあい通学合宿に参加したいと言っていた。





### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・ 事業に参加して自分が成長した気がします。最初は人を会話することすらダメだったけど、この事業に参加して自分から初めて会う人にまで話をすることができました。中学生になっても新しい友だちに自分から進んで話しかけることができると思います。
- ・ 挨拶を自分からできるようになった。朝、目覚まし時計なしで起きられた。自分のことは自分でできるようになった。友だちと仲良くできた。
- ・ いろいろな活動をして自信をもって他の学校の子に話しかけることができた。
- ・ レクリエーションや野外炊事では、班のみんなと協力してできた。
- ・ 他の学校の子と一緒にしゃべったり遊んだりできてうれしかったです。
- ・ 全部楽しかったので来年も行きたいと思った。
- ・ 楽しかったので、高校生になったらボランティアとして通学合宿に参加したいです。



#### ○ 事業の成果

- ・ 本事業に参加した子供の学校のうちほとんどの学校が少人数学級の子供である。今回は、室戸市内の5校の小学校から52名参加して行うことができた。たくさんの子供たちが参加してくれたおかげで、他校のいろいろな友だちと交流を深めることができた。
- ・ 子供たちの中には人見知りをしてコミュニケーションをとるのが苦手な子供たちもいたが、4泊5日間共に生活を送ることで、他者と関わることへの苦手意識がとれて、最終日には気軽に会話できるようになり子供同士の絆が深まった。これからも、子供たちがかわり合い、より良い関係が築ける活動を考えていきたい。
- ・ 子供たち自ら規則正しい生活を送らせるために、日々の活動時間（就寝時間、学習時間等）を固定させて取り組んだ。学習時間内に宿題などが終わらない子供は、自ら学習時間が始まる前に第1集会室に行って宿題に取り組んでいた。自分の課題を考えて、それを解決する方法を見つけていた。生きる力が育んできている。

#### ○ 事業の課題

- ・ 疲れが出たのか通学合宿に参加した子供で次の日（月曜日）に学校を欠席したと学校から連絡があった。来年度は、一週間行うのであれば、日曜日始まり土曜日終わりの日程で考えていく必要がある。
- ・ ふれあい通学合宿で身についた生活習慣を家庭や学校に帰っても生かすことができるように各関係機関と連絡を密に取り合いながら事業を進めていかなければならない。

## 鯨舟競漕にチャレンジ

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

土佐室戸鯨舟競漕大会に参加するなど、地域の自然や文化に触れる活動を通して、青少年の社会性を育む。

#### ○ 実施期間

平成30年7月14日（土）～平成30年7月16日（月）2泊3日

#### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学4年生から6年生までの児童 38名／定員40名

#### ○ 活動プログラム

| 7月14日〔土〕                                                                                                                                                                                   | 7月15日〔日〕                                                                                                                                                                                                                                                      | 7月16日〔月〕                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 15:30 とろむ着<br>15:35 開講式<br>15:45 鯨舟操船練習（～16:30）<br>16:45 とろむ発（所バス）<br>17:30 タベのつどい<br>17:45 夕食<br>18:30 配宿<br>18:45 ベッドメイク<br>19:00 入浴<br>20:00 旗づくり<br>21:00 班会<br>21:30 就寝準備<br>22:00 就寝 | 6:00 起床・身支度・更衣<br>7:15 朝のつどい<br>7:30 朝食<br>8:15 自然の家発（所バス）<br>9:00 鯨船競漕大会参加<br>12:00 昼食<br>14:00 表彰式・閉会式<br>14:15 とろむ発（所バス）<br>14:45 自然の家着<br>15:00 チリメンモンスターをさがせ<br>17:30 タベのつどい<br>17:45 夕食<br>19:00 入浴<br>20:00 花火見学<br>20:30 班会<br>21:00 就寝準備<br>22:00 就寝 | 6:00 起床・身支度・更衣<br>自主点検・清掃<br>7:15 朝のつどい<br>7:30 朝食<br>8:30 自然の家発<br>8:50 海浜活動センター着<br>9:00 シーカヤック<br>12:00 昼食（弁当）<br>12:45 閉講式<br>13:00 海浜活動センター発<br>所バス・セレナ<br>15:00 牟岐駅着<br>15:30 はりまや橋観光 BT 着<br>15:45 参加者解散 |

### 2. 活動の様子

#### < 1日目 >

今回の「鯨舟競漕にチャレンジ」では、高知・徳島方面の4年生から6年生までの小学生を募集し、計38名が参加することになった。初対面にも関わらず、チームのメンバーと仲良く話す姿が多く見られた。午後の活動は、翌日の大会に向けた鯨舟操船の練習を行った。自然の家からは、3チームが参加することになっているが、初めての練習ということもあり、艀を漕ぐのに苦労していた。夜は、大会当日に使用する旗作りを行った。チームで相談して旗を作ることで、仲間の絆をより深めることができた。班会では、午後の鯨舟操船の反省と明日の大会向けの抱負をふりかえりカードに記入した。



### < 2 日目 >

2 日目は、快晴の中、鯨舟競漕大会が行われた。当日は非常に熱く、レースまでの待ち時間も長いため、熱中症対策として水分補給を適宜行うようにした。3 チームとも、子ども鯨舟レースに参加したが、第 1 レースはチームグリーンと他団体のサッカーチームであった。昨日の練習では、掛け声も小さく、櫓を漕ぐタイミングも合っていなかったが、本番は、全員が協力し、息を合わせることができ、見事相手チームに勝利した。第 2 レースは、チームブルーとチームレッドの競漕であった。お互いに、昨日の班会で考えた作戦通り舟を漕ぐことができ、どちらも自己新記録を出すことができた。結果は、第 1 位から第 3 位まで、全て自然の家の出場チームとなった。大会後は、マグロの解体ショーで捌いた刺身をおいしくいただいた。午後は、チリメンモンスターをさがす活動をする予定だったが、大会の延長により十分な時間を確保することができず、班ごとの自由時間に変更した。夜間は、室戸市の花火大会を見学した。展示棟から見る大きな花火に、子供達も喜んでいた。



### < 3 日目 >

3 日目は室戸岬新港のとろむでシーカヤックの活動を行った。3 人のパディを組み、速く進むためにはどうすればよいか考えながら活動する中で、協力している姿が見られた。昨日の鯨舟競漕大会とは違い、速さを競う活動ではないので、のびのびと楽しそうにカヤックを漕いでいた。練習時間を十分に確保することで、パドルの扱い方にも慣れ、息を合わせてシーカヤックを上手に操舟することができようになっていた。



## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

- ・鯨舟競漕大会で優勝できてうれしかった。みんなで協力できたのがよかった。
- ・大会を通して、みんなの絆が深まった。
- ・練習の時よりも大きな声が出ていてよかった。

### ○ 事業の成果

- ・鯨舟競漕大会に参加することで、チームで協力して活動し、仲間との絆を深めることができた。
- ・シーカヤックの活動を通して、パドルの使い方や漕ぎ方を正しく身に付けることができた。
- ・一日の終わりに班での活動を取り入れることで、チームとしてのまとまりを作ることができ、参加者同士の関わりをより深めることができた。

### ○ 事業の課題

- ・今回は、大会の終了時刻が遅れたため、午後の「チリメンモンスターをさがそう」の活動を行うことができなかった。楽しみにしていた参加者も多数いたため、余裕を持ったスケジュールをとることが必要である。
- ・大会当日は、クーラーボックスに入れた氷や飲料水を準備し、熱中症対策を行ったが氷が不足した。次年度は、不足しないように、十分な量を予め確保しておきたい。



## 室戸世界ジオパークの生き物ウォッチング！

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

自然豊かな室戸において、動物の専門家とともに行う生き物の調査や観察を通して自然に対する理解を深め、生き物への興味関心を育む。

#### ○ 実施期間

第1回 平成30年 9月1日（土）～平成30年 9月2日（日）1泊2日

第2回 平成30年11月3日（土）～平成30年11月4日（日）1泊2日

#### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学生児童、未就学児とその保護者

第1回 7家族 16名／定員20名 第2回 7家族 18名／定員20名

#### ○ 活動プログラム

| 1日目                          | 2日目                   |
|------------------------------|-----------------------|
| 12:50 室戸世界ジオパークセンター着（自然の家バス） | 6:00 起床・出発            |
| 13:10 オリエンテーション              | 6:15 仕掛け確認・観察・片付け     |
| 13:20 室戸ジオパークの説明             | 7:45 朝食               |
| 14:00 コウモリの棲む洞窟前にて説明         | 8:15 部屋の掃除等           |
| 15:20 コウモリ・ネズミの餌仕掛け設置        | 9:00 動物カメラ探しオリエンテーリング |
| 17:00 自然の家入所オリエンテーション        | 9:40 動物カメラ映像鑑賞        |
| 17:30 夕食                     | 10:00 四国のほ乳類の話        |
| 19:00 レクリエーション               | 10:30 ふりかえり           |
| 20:00 入浴                     | 10:45 まとめ             |
| 21:00 コウモリの仕掛け確認             | 11:00 終了              |
| 22:00 就寝                     | 11:20 自然の家発（自然の家バス）   |

### 2. 活動の様子

#### <1日目>

オリエンテーションでは、スタッフの紹介に合わせ、参加家族ごとの自己紹介を行った。その後、参加者は最御崎寺近くのコウモリが生息する洞窟に向かい、講師の谷地森氏によるコウモリの生態に関する話を聞いた。また谷地森氏が洞窟から捕獲したコウモリを観察する場面では、参加者全員がコウモリの間近に寄り、興味深く手足などを観察したり、写真撮影をする様子が見られた。



その後は、自然の家に移動し、コウモリ・ネズミの罠の仕掛けを家族ごとに作成した。組み立ての際には谷地森氏と助手の指示を聞きながら、初めての道具を一生懸命に組み立てる様子が見られた。

夕食後のレクリエーションでは、生き物になりきる「動物交差点」と「バットとモス」のゲームに盛り上がり、参加者から大きな歓声が上がっていた。その後は場所を移動し、家族ごとにランタン1つを持ち、ナイトハイクを行った。途中でランタンを消して静けさを感じる時間では、低学年の児童が暗い恐さで泣き出す場面もあったが、展示棟屋上で星空を見上げる頃には落ち着いていた。雲一つない満天の星空で、特に保護者からは感嘆の声が上がっていた。

21時からの罠確認では、3匹のコウモリ捕獲することができた。コウモリの体の測定や性別・成長段階等の判断について谷地森氏から話があり、参加者から多くの質問があがった。参加者は、手袋をした手で捕まったばかりのコウモリを触るなど、興味深く観察する様子が見られた。



## <2日目>

2日目は、早朝から罠を確認し、コウモリとネズミそれぞれ1匹ずつの測定・観察を行い、その後は全員で協力し、罠の片付けを行った。動物カメラ探しオリエンテーリングでは、森に設置している3台のカメラを探すゲームを行った。カメラを見つけた後には谷地森氏による森のガイドが行われ、ネズミが棲家としていた鳥の巣箱の説明では、草で敷きつめられた巣箱の様子をととても興味深そうに覗く様子が見られた。



動物カメラ探しオリエンテーリングで持ち帰ったカメラの映像鑑賞では、タヌキや鹿などが映っており、参加者は映像に見入っていた。四国のほ乳類の話では、四国に生息する熊やオオサンショウウオ等の希少な生き物について撮影映像とともに話があり、特に参加児童は非常に興味津々の様子であった。最後のふりかえりでは、家族ごとに2日間の感想を述べ、コウモリを間近で見て感動したことや印象に残ったことなどが発表され、2日間の思い出を参加者全員で共有した。

### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・コウモリとネズミを見れてよかった。初めて見た。
- ・オオサンショウウオの説明がすごくおもしろかった。
- ・巣箱にネズミが葉っぱを敷き詰めているのが面白かった。
- ・親子で、ここでしか体験できないことが、体験できて良かったです。
- ・ナイトハイクで、天然のプラネタリウムを見られてよかった。

#### ○ 事業の成果

- ・日頃見る機会のないネズミやコウモリの観察や、動物・自然と人間との関わりの話をするなかで、子どもたちの自然への興味を十分に引き出すことができた。
- ・昨年に比べ、レクリエーションゲームやナイトハイクを取り入れたところ、参加者から好評であった。また、満天の星に感動する声も多かった。生き物の観察が中心の事業ではあるが、自然の家の環境を活かした活動の提供ができた。

#### ○ 事業の課題

- ・1日目の最御崎寺近くの洞窟前での説明では、冬眠前のコウモリにストレスを与えるため、洞窟内に入っていないが、参加者からは入って見たかったという声もあった。今後は写真や動画で洞窟内の様子を見せられるよう検討したい。
- ・森での動物カメラ探しオリエンテーリングでは、多少傾斜のある場所を通るが、参加児童の様子から少しリスクを感じるため、通る道の再検討を行う必要がある。



## ニンジャキャンプ～冬の陣～

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

地域の歴史や文化に触れる活動を通して、青少年の健全育成を図る。

#### ○ 実施期間

平成31年2月16日（土）～平成31年2月17日（日）1泊2日

#### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学3年生から5年生までの児童 95名／100名

#### ○ 活動プログラム

| 2/16（土）                | 2/17（日）            |
|------------------------|--------------------|
| 9:30 高知市内迎え            | 6:30 起床・洗面・清掃      |
| 10:00 海部郡迎え            | 7:30 朝のつどい         |
| 12:00 自然の家 着           | 朝食【食堂】             |
| 12:20 昼食【食堂】           | 8:45 自然の家 発        |
| 13:30 ニンジャマックス【つどいの広間】 | 9:15 吉良川公民館 着      |
| チャンバラ合戦IKUSA           | 9:40 飛脚レース スタート    |
| 17:00 タベのつどい           | 12:00 昼食【弁当】       |
| 夕食【食堂】                 | 13:00 バス出発         |
| 荷物の移動                  | 16:00 はりまや橋観光BT 到着 |
| 自由時間                   |                    |
| 19:00 ナイトハイク           |                    |
| 20:30 入浴               |                    |
| 21:45 就寝               |                    |

### 2. 活動の様子

#### <1日目>

今回、小学3年生から5年生の95名がニンジャキャンプに参加した。午後の活動として、「ニンジャマックス」と「チャンバラ合戦 IKUSA」の2つを行った。

まず、活動前に参加者全員で準備運動を行い、体をほぐした。次に、スポーツマックス担当者から「ニンジャマックス」についての説明をしていただいた。活動中のルールや挑戦の仕方について詳しい話を聞くことで、安全についての意識を高めることができた。

「ニンジャマックス」では3人1組でロープを登ったり、綱を渡ったりする活動を行った。どの参加者も集中して、安全に気を付けて活動に取り組むことができていた。制限時間内に完全制覇するために、他の挑戦者の動きをしっかりと観察している様子も見られた。

「チャンバラ合戦 IKUSA」では、スポンジの刀を使用し、相手の腕についたボールを落としあう活動を行った。今回は、班同士や男女別等の活動を取り入れることで、多くの参加者と関わりを持つことができた。活動中は、自分なりに作戦を立てて意欲的に取り組む姿が多く見られた。

その後、第1ロッジまでナイトハイクを行い、1日目の活動を終えた。



### < 2 日目 >

2 日目は、吉良川で開催される飛脚レースに参加した。例年、自然の家からは 5 チームほど参加していたが、今回は 9 5 名と大幅に参加者が増加したため、1 9 チームでの参加となった。レース開始前にそれぞれの班で作戦を練り、設定した時間に戻ってくることができるように話し合う時間を設けた。レースが始まると、地図を片手に吉良川の町並みや名所を歩く姿が多く見られた。各走者は決められた区間を歩き、関所ごとに定められたお題に挑戦した。初めての体験に緊張しながらも、チームで協力してレースに取り組むことで仲間との絆を深めることができた。結果としては、入賞することはできなかったが、飛脚レースに参加することで、吉良川の歴史ある文化を知るよい機会となった。



## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

- ・ ニンジャマックスで、制限時間以内にクリアできてよかった。
- ・ チャンバラ合戦で相手のボールを落としてうれしかった。
- ・ 初めて参加したけど、とても楽しかった。また参加したい。
- ・ 飛脚レースで、たくさん芋を食べることでよかった。

### ○ 事業の成果

- ・ 「ニンジャマックス」や「チャンバラ合戦 IKUSA」の活動をとおして、体を動かす楽しさを感じさせることができた。
- ・ 飛脚レースに参加することで、仲間とともに協力し、活動することの大切さを知ることができた。

### ○ 事業の課題

- ・ 「ニンジャマックス」の活動では待ち時間ができるため、挑戦を終えた参加者に対して別の活動を準備しておく必要がある。
- ・ 飛脚レースでは、活動中に道に迷う参加者が多く見られた。そのため、前日に順路の確認をしておく必要がある。

## くろしお祭り・くろしお200人キャンプ

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

高知県東部地域及び徳島県南部地域の豊かな自然・歴史・文化を体験する活動、宿泊体験、世代間交流などを通して、青少年のチャレンジ精神、創造性、社会性を育む。

#### ○ 実施期間

平成30年10月20日（土）～平成30年10月21日（日）

#### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

くろしお200人キャンプ：小学3～6年生（100名／150名程度）

くろしお祭り日帰り参加者：どなたでも（165名／100名程度）

#### ○ 活動プログラム

| 10月20日〔土〕                                                                               | 10月21日〔日〕                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 13:30 送迎バス 出発<br>16:00 自然の家 着<br>200人キャンプはじまりのつどい<br>夕食<br>19:00 200人キャンプファイアー<br>消灯・就寝 | 朝のつどい 朝食<br>10:00 くろしお祭り開会<br>14:00 くろしお祭り閉会<br>14:00 送迎バス 出発 |

### 2. 活動の様子

#### <1日目>

200人キャンプは、くろしお祭りをたっぷり楽しむ前泊プログラムとして開催された。夜のキャンプファイアーでは普段開催している教育事業ではなかなかできない、大人数で盛り上げられる内容のゲームを中心に構成された。また、キャンプソングもこれまでにない迫力での大きな声量が室戸の山に響き渡った。



#### <2日目>

今年のくろしお祭りは、室戸市内各種団体、近隣国立施設、室戸ボランティアリーダーの協力を得てクラフトブース、体験ブース、チャレンジブースの3つの領域で30ブースを出展した。屋内外問わず敷地のあちらこちらにブースが設けられ、参加者にはスタンプラリーカードを手に自由に回ってもらった。自分の気に入ったブースではたっぷりと時間を過ごしたり、何度も同じブースにチャレンジしたりする姿が見られた。





### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・いろいろなかつどうがいっぱいあってたのしかった。またらい年もきたい。
- ・すごたのしかった。いろいろな体験をした。
- ・リーダーの人もやさしかったし、お友だちもできて楽しかったです。
- ・またいきたくなるキャンプでした。
- ・ふだんできない体験や他の学校の子たちと仲良くできた。

#### ○ 事業の成果

- ・室戸ボランティアリーダーが主体となって企画立案したブースを主軸とした運営を試みたが、参加者からは多大な好評を得た。また、リーダーからも「自分で考えたブースでたくさんの子供たちに楽しんでもらえたことが自信になった」の声があり、リーダーのスキルアップのまたとない機会とすることができた。

#### ○ 事業の課題

- ・地域の行事と重なったことから、これまで出展、出演していた団体の参加がなかった例があり、また、前泊プログラムの参加者も想定を下回ってしまった。次年度は日程を変えて開催することで地元とのつながりをより密にしたい。
- ・ブースを敷地各所に分散したことで、人が賑わう場を産み出しきれなかった。ブースの集約配置を行うことで、祭りの賑やかさを見せる工夫をが必要である。

## むろと体験の風×アートプロジェクト

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

自然とアートが調和する施設整備を行い、子供と芸術作品が出会う機会を提供することを通して、子供たちの健やかな成長を支援する。

#### ○ 実施期間

平成30年10月21日（日）

平成31年2月18日（月）～平成31年2月23日（土）5泊6日

#### ○ 参加者数

5名

#### ○ 内容

##### （1）子供を対象とした芸術ワークショップの開催

平成30年10月21日（日）

「子供たちとアーティストがコレボレーション～むろとの魅力を表現してみよう～」

くろしお祭り（国立室戸青少年自然の家の施設開放事業）に参加している約100名の子供たちとアーティスト（一ノ瀬健太氏）が協力して巨大な絵を創作する。完成した作品は、平成31年3月31日まで国立室戸青少年自然の家に展示する。

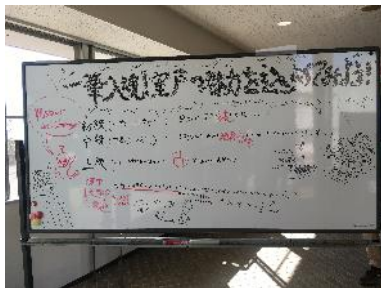
##### （2）自然とアートが調和する施設整備

平成30年度中の1週間程度

講師の一ノ瀬氏が学生等のメンバーを募り、国立室戸青少年自然の家の本館の壁面に作品（壁画）を創作する。完成した作品は、国立室戸青少年自然の家を訪問した子供たちが自由に鑑賞できるようにする。

### 2. 活動の様子や作品について

平成30年10月21日（日）







平成30年2月18日（月）～平成31年2月23日（日）

## 『Insta Whale』



作品コンセプト



一ノ瀬 健太

インスタグラムの”映え”スポットとして多くの方々にこの場所を訪れて欲しいと思います。タイトルの『Insta Whale』とは室戸の文化&食の資源であるクジラ（whale）とインスタ映えする壁（wall）を掛け合わせたものです。

この壁はアートエデュケーションとしても機能します。施設を利用する子どもたちの研修プログラムとして活用可能です。それは、子どもたちに壁面を塗らせるワークショップです。どの壁に、何の色を塗るのか、グループで議論し、決定したことを実行・完成させるまでのプロセスが学びとなります。仲間と議論して決定するプロセスを通じて民主主義を学び、達成感と成功体験が味わえます。ここで学んだ子どもたちが自助の精神を培い、DIY の精神で人生を歩んでほしいと思います。



## 『KUKAI』



長谷川 彰宏

### 作品コンセプト

高知県の室戸岬にある、御厨人窟にて空海は悟りを開いたとされている。

青年だった弘法大師が開眼したその時、視えた風景が空と海であったため、空海という法名を得たとされる。

この逸話を元に、その時“視た”ものを私なりにイメージし、具体化を試みた。

そこには「動的な佇まい、静的な生命感」や「悠久と刹那」という相反する要素が矛盾無く一体と成す時、達観に至り得るのだろうか、等と、私は描きながら思う。

## 『クジラと共に』



### 作品コンセプト



山田 勇魚

中庭中央ステージ前階段を大人数でも楽しめる撮影スポットにしようと考え、巨大なクジラを描いた。室戸がクジラの町である事と、私の名前の由来がキラメッセ室戸鯨館の名誉館長でもある C.W.ニコル氏の著書「勇魚」である事からクジラをモチーフに選んだ。

一見すると何が描かれているか分かりづらいが、ステージ中央奥に立ち、全体を見渡すとマッコウクジラのシルエットが浮かび上がる。

スマートフォンのカメラを横に構えると頭の先から尻尾までちょうど収まるサイズだ。

階段の好きな位置に立ってポーズを取ることでクジラの背中に乗ったり、一緒に泳いだり中に入っているかのような写真を撮影できる。

シンプルな配色なので複数人で集まって人文字を描く事も可能だ。

## 『鯨死して骨残す』



沖 綾乃

### 作品コンセプト

室戸と鯨にゆかりがあるということで、鯨の骨をモチーフとしています。

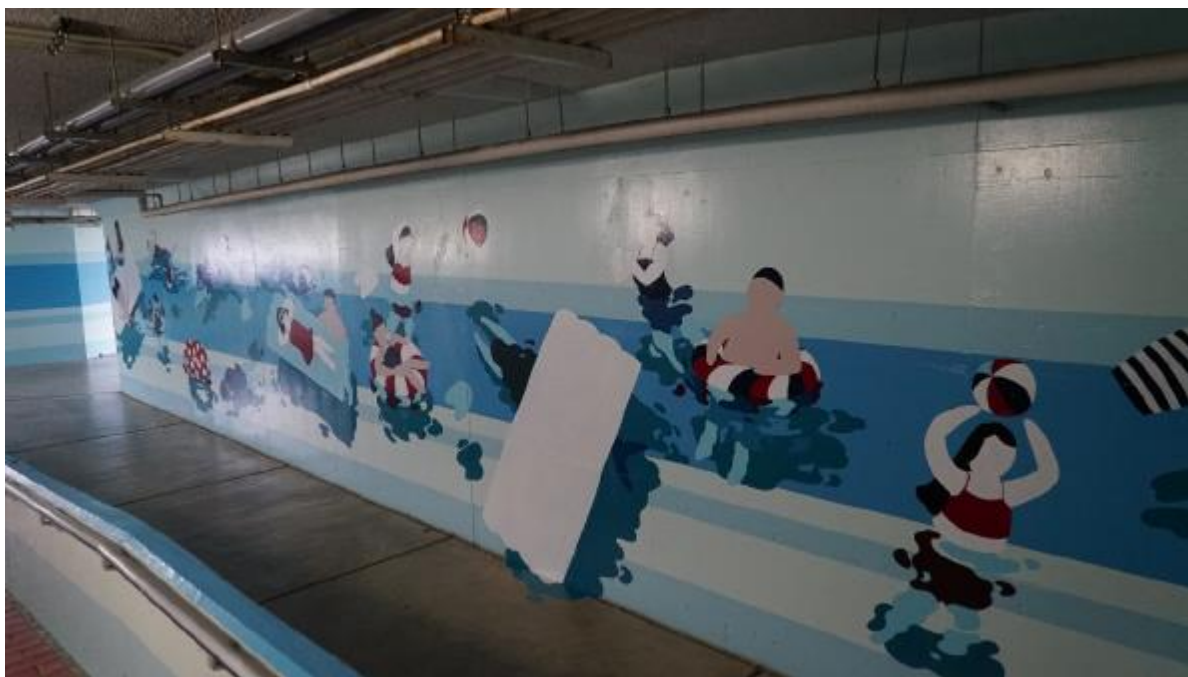
鯨骨生物群集という、海底に沈んだ鯨の死骸を拠り所として貝やバクテリアなどが住み着いたことで形成された生態系があると知り、絵にしたいと思いました。

それはきっと神秘的で迫力のある光景なんだろうなと思いを馳せながら描きました。施設を訪れた子どもたちに海の生態系の仕組みを学び、生まれては消えゆく悠久の営みに想いを馳せてほしいと思います。骨は海底で砂塵を舞わせながら、どこまでも深く、深く、潜って行って、気づけば、夜空の星になっている。

虎が皮を残すように、鯨は骨を残すのでしょうか。室戸の食資源であり、文化資源でもある鯨、縄文から続く鯨に対する畏怖と祈りを感じてもらえたらうれしく思います。



## 『FLOAT & BATH』



大島 利佳

### 作品コンセプト

国立室戸青少年自然の家の近くにある海から着想し、もともと水色に塗装された壁を活かし、海に見立てました。

老若男女問わず楽しめるように、元々良く海水浴をする人をポップなイラストをイメージし描き上げました。水上と水中、それぞれで見え方が変わっているので、壁の水色が水に見えます。

また、白い浮き輪ベッドの前に立つと、イラストの人たちと一緒に海水浴を楽しんでいるように見えるので、写真を撮るのにおすすめです！実は人魚もいるので探してみてください！

### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 事業の成果

- ・アート作品の作成においては、地元高知県立室戸高等学校の生徒3名に塗装のお手伝いをいただいた。今後も地元高校との連携をさらに強化し、ボランティアの育成につなげていきたい。
- ・地元室戸市にとって芸術作品に接する機会が増えることによって、子供たちの健やかな成長を支援する機運を高めることができた。

#### ○ 事業の課題

- ・標高300mという立地条件により、雨天時には湿気により作品作りが不可能になる。実施期間や時期について検討が必要である。

## くろしおいっしょにあそぼう通信

『くろしお』いっしょにあそぼう通信は、高知県東部地域と徳島県南部地域に暮らす人たちが主催する青少年向け体験活動事業を集めた情報誌です。この情報誌の特徴は、様々な団体が主催する事業を1つの情報誌に取りまとめ、参加申込の手続きを事務局がすべて行ったところです。

### 1. むろと黒潮・体験の風をおこそう運動とは

むろと黒潮・体験の風をおこそう運動は、平成29年度に実行委員会（事務局：国立室戸青少年自然の家）を発足しました。高知県東部地域と徳島県南部地域の青少年教育に関する17団体が連携し、青少年の体験活動の重要性を広く家庭や社会に発信するとともに、青少年を対象とした様々な体験活動の機会を提供しております。

今年度は、平成30年10月から12月までの期間に行われる青少年向け体験活動事業の情報誌を作成し配布するとともに、鯨舟競漕大会やジオパークに関する事業など、地域に根ざした事業を実施しました。

### 2. 『くろしお』いっしょにあそぼう通信

『くろしお』いっしょにあそぼう通信を作成するにあたり、参考にしたのは、島根県三瓶地域協育ネットワーク（事務局：国立三瓶青少年交流の家）が作成している「いわみん体験の風をおこそう特別号」という情報誌でした。高知県東部地域と徳島県南部地域は、島根県三瓶地域と同じように自然が豊かで青少年人口の少ない地域であるので、この情報誌は参考になると考えたからです。また、このような情報誌を作成し配布することによって、高知県東部地域と徳島県南部地域の方々が青少年のための事業に積極的に取り組んでいただき、地域を活性化してもらえないかと考えたからです。

『くろしお』いっしょにあそぼう通信の作成と配布、参加申込を受け付けるなどの業務を行うにあたって、次の3点に留意しました。

1点目は、幅広い年齢層や体験活動事業に参加したことがないような親子が参加したくなるような情報誌にすることです。事業の内容だけでなく、指導者の紹介を記載するとともに、参加対象や参加費を明確に掲載しました。また、事業は地域の食の魅力に目を向けたものを取り入れてみました。

2点目は作成した情報誌の配布場所の工夫です。むろと黒潮・体験の風をおこそう実行委員会のメンバーの力を借りることにより、人が多く訪れる観光案内所や道の駅などに情報誌をおいていただきました。また、小学校には高知県のい町以東、徳島県南部は阿南市、海部郡及び勝浦郡に配布しました。

3点目は参加申込を受け付ける業務についてです。掲載されている事業の主催者の中には家族経営のお店や漁師の方など、体験イベントを実施したことがない方もいました。そこで、事業を実施する際



に最も煩雑となる受付業務を事務局である国立室戸青少年自然の家が行うことにしました。専用の「Web お申込みフォーム」を作成し受付を行いました。このことによって、はじめて事業を実施する方にとっては、運営に関する負担を軽減することができたと思います。

なお、参加者が少ない事業については、実行委員会のメンバー事務局である国立室戸青少年自然の家のネットワークを使って参加を呼びかけたりもしました。このような取り組みにより、今回『くろしお』いっしょにあそぼう通信に掲載されたすべての事業は、参加者が集まり順調に終わることができました。

### 3. 成果と課題

今回、「地元漁師と親子釣り大会&鯉のタタキ作り」という事業を漁師さんが実施しました。20名の親子が参加しました。事業を主催した漁師さんは、「こんなにたくさんの方々が参加してくれるとは思っていなかった」と驚きの声をあげていました。事業に参加した保護者からは「釣れた時の子供の顔が今年一番だった。」「また参加したい。」などの声もあり、とても良い評価を得ました。

一方で、この広報誌の趣旨に賛同し連携していただけたような高知県東部地域と徳島県南部地域の12団体に声掛けを行いました。すべての団体が賛同してくれたわけではありませんでした。最終的には7団体8事業の掲載となりました。この情報誌を継続していくことによって、少しずつ実績を作っていきたいと思います。

最後になりますが、『くろしお』いっしょにあそぼう通信を作成することによって、地域の方々が青少年のために事業を行うということが身近になってくれればと考えております。また、このことによって地域の青少年の体験活動の機会が増えてほしいと願っております。



# 管理運営報告

## 1. 職員の主な研修・講習等

- 「新任職員研修」 平成 30 年 4 月 4 日～4 月 6 日  
(新規採用職員、人事交流職員及びその他の職員対象/ 1 名参加)
  - ・ 所の概況、実施事業及び利用者受入業務の内容説明、実践を重視した基礎的研修
- 「救急救命・AED講習会」 平成 30 年 4 月 16 日実施 (15 名参加)
  - ・ 室戸市消防署職員による講義及び実践練習。
- 「指導系職員研修(海の活動)」 平成 30 年 4 月 27 日 (海の活動指導職員対象/ 8 名参加)
  - ・ 平成 30 年度海活動の実施マニュアルについての講義と海での実習を実施。
- 「危険度の高い活動プログラムにおける研修」 平成 30 年 8 月 4 日 (11 名参加)
  - ・ 過去において発生した水難事故の要因と危険個所の確認やレスキューチューブを使った救助と運搬方法等の実習を実施。
- 「緊急地震速報対応訓練」 平成 30 年 11 月 1 日 (23 名参加)
  - ・ 室戸市防災無線からの緊急地震速報を受けたときの、利用者に対する指示対応の方法及び安否確認の方法を理解する。また、職員間の緊急連絡網を用いた職員の安否確認が確実に機能するか検証。

## 2. 平成30年度国立室戸青少年自然の家運営協議会

### 【第1回】

日 時 平成30年6月18日（月）14時～16時

場 所 国立室戸青少年自然の家 第1集会室

出席者 川野雅弘（小林代理）、清水幸一、高橋勇一郎（白井代理）、杉村高晴、

（敬称略） 長尾洋行、前田久尚、三觜美香、依光香代子、各委員 計8名

（欠席者：小松幹侍、酒井哲雄、櫻井克年、竹中利文、田村千賀、時久恵子、松岡和也、横畑健、脇水宏の各委員）

### 【第2回】

日 時 平成31年2月22日（金）14時～16時

場 所 高知県立ふくし交流プラザ（高知市朝倉戊375-1）

出席者 和田庫治（植田代理）、小林恭子、清水幸一、高橋勇一郎（白井代理）、杉村高晴、

（敬称略） 竹中利文、田村千賀、長尾洋行、松岡和也、横畑健 の各委員 計10名

（欠席者：酒井哲雄、櫻井克年、時久恵子、前田久尚、三觜美香、依光香代子、脇口宏 の各委員）

## 3. 栄典関係

当施設研修指導員の門田秀美氏が、開所期から現在に至るまで42年の長きにわたり、スコアオリエンテーリング等様々な活動の指導を通して青少年の健全育成に尽力され、社会教育の振興に多大な貢献をされた功績により、平成30年11月2日に文部科学大臣から社会教育功労者表彰を受けられた。

### 門田秀美氏 略歴

昭和51年 国立室戸少年自然の家ボランティア指導員

平成13年 独立行政法人国立少年自然の家国立室戸少年自然の家ボランティア指導員

平成18年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家指導員

平成22年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家研修指導員

#### 4. 施設整備（主なもの）

##### ○駐車場街路灯取替

経年劣化により腐食していた街路灯が3月の強風により倒壊もので、利用者の安全性を確保するために、外灯の新設工事を行った。

##### ○非常用発電設備充電異常修繕及び備蓄電池充電異常による交換

落雷により非常用発電設備が故障し、本部予算により、充電器・ターミナルリレー交換及び蓄電池交換を行った。

##### ○トラック及び乗用車用の車庫（木造・トタン葺き）の屋根棟の破損修繕

台風21号の強風により車庫屋根が被害を受け、本部予算により現状回復のための修繕を行った。

##### ○コンテナ運搬・外装塗装

台風25号により、とろむに設置していた海の活動用具を格納するコンテナが被害を受け、本部予算により当施設駐車場等で保管していた既存コンテナ（4台）をとろむに運搬、塩害処理を含む外装塗装等を行った。

##### ○窓ガラス修繕

メインホール棟及び体育館等のヒビの入っている窓ガラスの修繕を、外観の美化を図るために行った。

##### ○アートプロジェクト

東京藝術大学の学生を中心に、当施設の本館、研修棟及び宿泊棟等の壁面に壁画を創作した。完成した作品は、国立室戸青少年自然の家を訪問した子供たちが自由に鑑賞できるようにする。

##### ○当施設職員による模様替え等

等施設職員の創意工夫により、食堂棟、研修棟及び展示棟等の模様替え、タイル張り替え、壁塗り、ワックスがけ等を行った。



# 広 報 活 動

広報活動として様々なイベントにブースを出展したり、出張指導を行ったりして施設のPRを行った。

| 日時     | 研修会名                                 | 会場                  | 内容                  | 人数    |
|--------|--------------------------------------|---------------------|---------------------|-------|
| 4月5日   | 高知大学<br>新入生オリエンテーション                 | 高知大学                | 新入生オリエンテーション        | 456   |
| 4月13日  | 介良中学校 仲間づくりゲーム体験                     | 介良中学校               | 活動プログラム指導（仲間づくりゲーム） | 134   |
| 5月3日   | GW 期間イベント                            | 室戸ジオパークセンター         | クラフト出展（流木クラフト）      | 56    |
| 5月4日   | GW 期間イベント                            | 室戸ジオパークセンター         | クラフト出展（流木クラフト）      | 125   |
| 5月5日   | GW 期間イベント                            | 室戸ジオパークセンター         | クラフト出展（流木クラフト）      | 56    |
| 5月15日  | 香北中学校 仲間づくりゲーム体験                     | 香北中学校               | 活動プログラム指導（仲間づくりゲーム） | 29    |
| 5月19日  | 室戸市健康大学 講演会                          | 室戸健康大学              | 室戸健康大学講演            | 88    |
| 6月10日  | 元小学校 PTA行事                           | 室戸青少年自然の家           | 活動プログラム指導（防災野外炊事）   | 40    |
| 6月13日  | 高知大学リーダーシップセミナー                      | 高知大学朝倉キャンパス         | サークルに向けての広報         | 110   |
| 7月15日  | 土佐室戸鯨船競漕大会                           | 海の駅とろむ              | クラフト出展（流木クラフト）      | 90    |
| 6月30日  | 高知県幼児教育の推進体制シンポジウム                   | 高知県立県民体育館           | 講演会補助・施設広報          | 336   |
| 8月18日  | 夏休みイベント                              | 室戸ジオパークセンター         | クラフト出展（流木クラフト）      | 50    |
| 8月19日  | 夏休みイベント                              | 室戸ジオパークセンター         | クラフト出展（流木クラフト）      | 37    |
| 8月26日  | 夏休みイベント                              | 室戸ジオパークセンター         | クラフト出展（流木クラフト）      | 29    |
| 10月21日 | ヤシィパークカヤックマラソン                       | ヤシィパーク              | 共催、大会運営補助           | 140   |
| 10月21日 | 室戸岬健康マラソン大会                          | 室戸市                 | 共催、大会運営補助           | 960   |
| 10月26日 | 東洋町立野根小学校 防災教室                       | 野根小学校               | 活動プログラム指導           | 38    |
| 10月26日 | 認定こども園なはり 幼児の運動プログラム                 | 認定こども園なはり           | 乳幼児期の運動プログラム提供      | 64    |
| 10月28日 | むろとまるごと産業まつり                         | 海の駅とろむ              | 共催、クルージングプログラム提供    | 3,200 |
| 11月3日  | 高知大学物部キャンパス一日公開                      | 高知大学物部キャンパス         | クラフト出展（流木クラフト）      | 518   |
| 11月10日 | むろと元気フェスタ                            | むろと健康福祉センター<br>やすらぎ | クラフト出展（流木クラフト）      | 29    |
| 11月10日 | 第19回アイデアロボットコンテスト<br>中四国地区予選大会 高知県予選 |                     | 大会運営補助              | 149   |
| 11月10日 | 淡路うずしおフェスタ ブース出展                     | 国立淡路青少年交流の家         | クラフト出展（流木クラフト）      | 82    |
| 11月11日 | 淡路うずしおフェスタ ブース出展                     | 国立淡路青少年交流の家         | クラフト出展（流木クラフト）      | 36    |
| 11月11日 | 甫喜ヶ峰フェスティバル 2018                     | 甫喜ヶ峰森林公園            | クラフト出展（流木クラフト）      | 49    |
| 11月18日 | ヤシィパーク 秋祭り                           | ヤシィパーク              | クラフト出展（流木クラフト）      | 143   |

|        |                           |              |                   |       |
|--------|---------------------------|--------------|-------------------|-------|
| 12月8日  | 環境活動見本市東部のエコ大集合 in 室戸市    | 室戸ジオパークセンター  | クラフト出展（流木クラフト）    | 70    |
| 12月10日 | 奈半利町立加領郷小学校 防災学習          | 加領郷小学校       | 活動プログラム指導（ロープワーク） | 6     |
| 12月15日 | 健康なんこくキラリフェア（南国市生涯学習課）    | 南国市立スポーツアリーナ | クラフト出展（流木クラフト）    | 109   |
| 12月25日 | 吉良川公民館 苔玉作り               | 吉良川公民館       | クラフト出展（流木クラフト）    | 31    |
| 1月27日  | 大篠小学校 PTA ふれあい文化祭「科学遊び教室」 | 大篠小学校        | 科学体験のプログラム指導      | 193   |
| 2月10日  | リョーマの休日 ～自然&体験キャンペーン～     | 室戸ジオパークセンター  | 活動プログラム指導         | 242   |
| 2月10日  | 室戸市観光びらき                  | 室戸岬          | クラフト出展（流木クラフト）    | 36    |
| 2月24日  | むろと2000本桜祭り               | 高知県立室戸広域公園   | 共催、大会運営補助         | 1,649 |
| 2月25日  | 乳幼児期の運動プログラム              | 南国市立国府保育所    | 乳幼児期の運動プログラム提供    | 102   |

### 「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～ 東部エリアイベント」 より



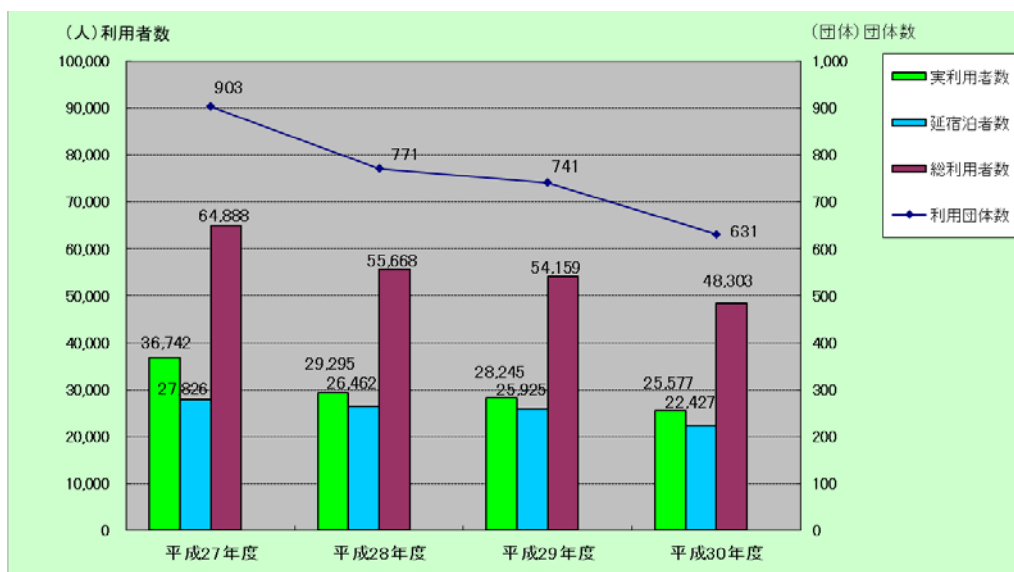
### 「飛脚レース」 より



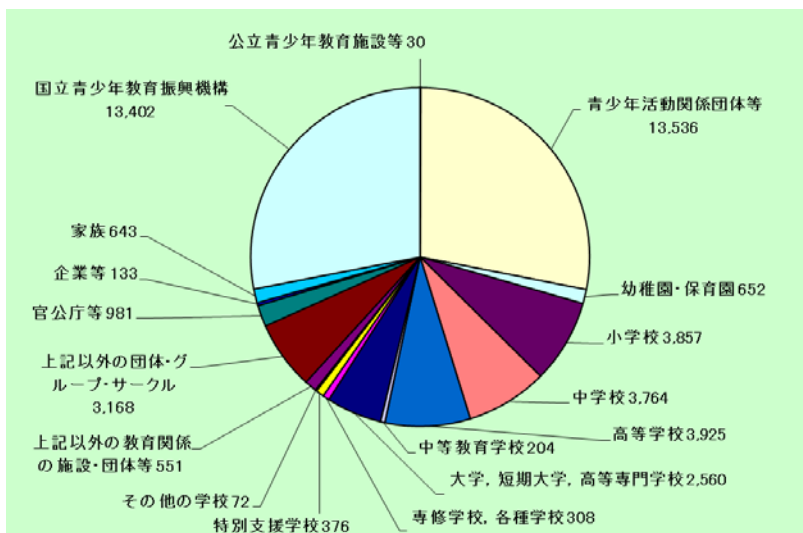
今年度も積極的にイベント出展や出張指導を行った。次年度も計画的にブース出展や出張指導を行い、施設利用PRを行っていきたい。

# 利 用 実 績

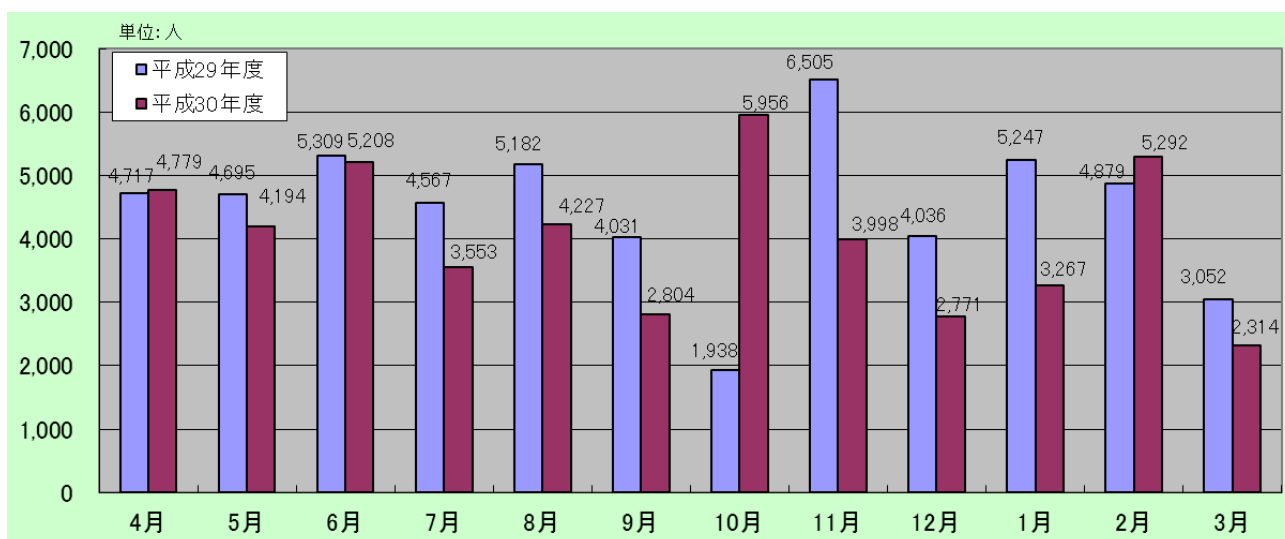
## 【年度別利用状況】



## 【団体種別稼働数】

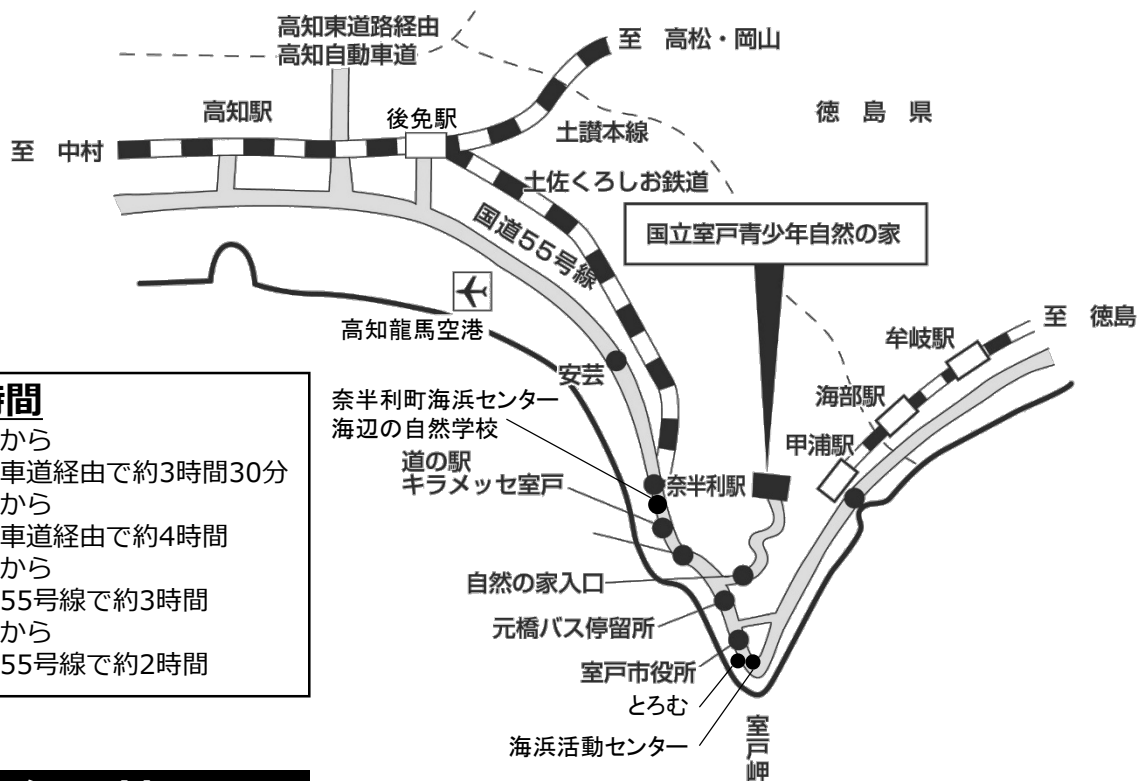


## 【月別稼働数】





# 交通案内

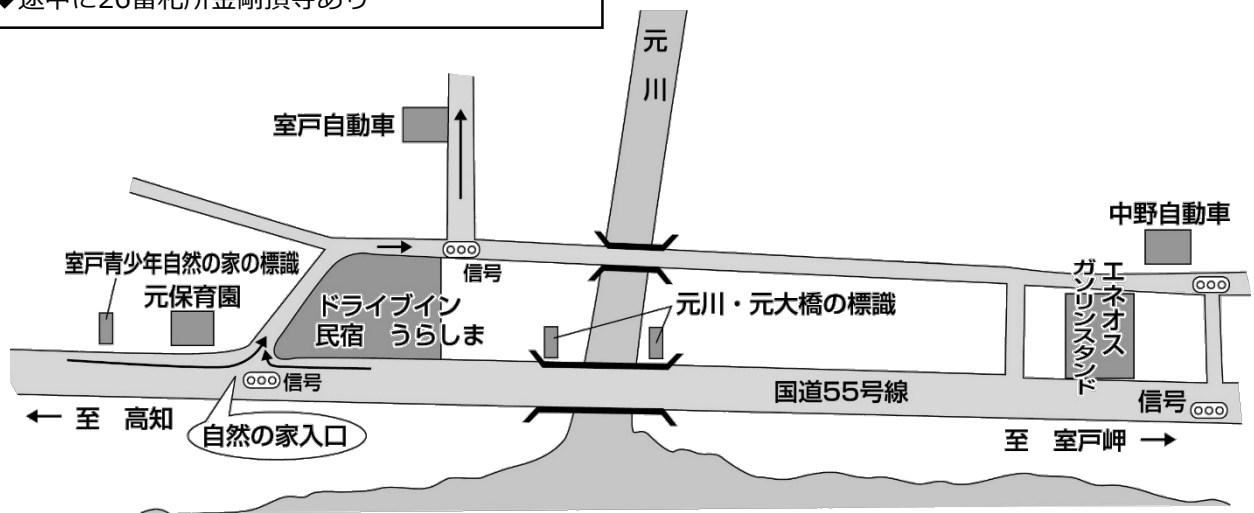


## 所要時間

- ◆高松市から  
自動車道経由で約3時間30分
- ◆松山市から  
自動車道経由で約4時間
- ◆徳島市から  
国道55号線で約3時間
- ◆高知市から  
国道55号線で約2時間

## 詳細地図

- ◆自然の家の標識から当所まで約5 km、約15分
- ◆途中に26番札所金剛頂寺あり



独立行政法人国立青少年教育振興機構

## 国立室戸青少年自然の家

〒781-7108 高知県室戸市元乙1721  
Tel. 0887-23-2313 Fax. 0887-23-2484  
E-mail. muroto@niye.go.jp  
ホームページ. <http://muroto.niye.go.jp/>